271
275

0053134000

0053134-000

271－275

家庭教育参考文献目録

文部省教化局・編

文部省教化局

昭和１８

AHP

271
275

ヨ4H27

昭和十八年三月

家庭教育參考文獻目錄

文部省教化局

はしがき

決戰體制下の今日、家庭に於ける生活と教育が如何に重大な意義を持つてゐるかは今更説明する迄もない。主婦は家の子の母として將亦國の子の母としての光榮と責務を負つてゐるのである。主婦がこの使命を自覺して家庭生活を掌り子女を育成薫陶して行く力こそ日本發展の原動力である。家庭教育の重要性もそこにあるのであつて主婦はまたその主體である。この重い責務遂行のためには常に必要なる知識を廣く深く啓培し以て創意と工夫とに滿ちた家庭生活、共同生活を建設すると共に次代の皇國民たる子女の育成薫陶に一身を捧ぐる覺悟を持たなければならない。戰時下家庭の主婦は寸暇なき狀態におかれてゐるのであるが、しかし心懸けによつては僅かな時間に於ても良書に親しみその精神生活の内容を豐富ならしめ我が身の修養につとめることができるのである。しかしながら近時巷間、類書しきりに店頭を飾るのであるが、主婦自ら一々その可否を判別し良書を撰擇することは到底望めないことである。此處に於て文部省は恩賜財團愛育會愛育研究所教養部に編輯を委囑し更に本省に於て之に檢討を加へて出來たのがこの「家庭教育參考文獻目錄」である。

次に本目錄の構成及び之が使用上、留意すべき二、三の點を述べると、本書は總目錄及び事項別分類目錄の外に、「指導者向」「一般主婦向」といふ對象別、「都市向、農山漁村向」といふ地域別、「十圓程度」「三十圓程度」「三十五圓程度」「六十圓程度」「六十五圓程度」で買入れることの出來る價格別の三者を取り組ませての家庭教育圖書群とも云ふべきもの及び未婚の有職婦人の爲の圖書群とも云ふべきものゝ編成を考慮して編輯したのである。而してどの圖書群に就いても家庭教育の見地より最小限度必要な事柄が與へられるやうに出來てゐるのである。從つて之等の圖書群中の一冊乃至數冊を、自己の好みに任せて取り上げることよりも、たとへ時間を要するにしても一群の圖書を完全に讀了消化して教養研究心を昂め以て戰時下に於ける家庭教育の振興、家庭生活の刷新充實を期したいのである。その最も效果的な一方法として心ある指導者によりこの目錄を基準として家庭教育に關する圖書群を購入編成し讀書會を設けて指導されたいのである。（讀書會の指導に關しては、道府縣の中央圖書館に連絡せられてその指導を受けられるとよい。）

今や我が國は有史以來未曾有の世界新秩序建設の爲の大戰爭をしてゐるのである。主婦として母性として全心身を捧げてゐる皇國女性にとつて、その任務と使命は重且大といはなければならない。女性らしい美しい心根と、雄々しく逞ましい意志とをもつて、數多くの試練を超克しなくてはならない時である。本書が少しでも多く此の目的に役立つやうひたすら切望する次第である。

昭和十八年三月

文部省教化局

271
275

目次

一　家庭教育參考文獻總目錄……一
二　家庭教育圖書群……九
(1)　未婚有職婦人向圖書……九
(2)　一般主婦向圖書……一一
(一)　農山漁村主婦向……一一
(二)　都市主婦向……一三
(3)　指導者向圖書……一七
(一)　農山漁村向……一七
(二)　都市向……二〇
三　內容主目別分類……二五
(1)　皇國民たるの自覺、我が國に於ける家の特質の闡明竝に其の使命の自覺に資するもの……二五

（2）健全なる家風の樹立に資するもの……二六
（3）母の教養訓練に資するもの……二六
（4）子女の薫陶養護に資するもの……二七
（5）隣保相扶新生活文化の樹立に資するもの……二九
（6）家庭生活の刷新充實に資するもの……三一
四　家庭教育參考文献内容解説……三三

終

一　家庭教育參考文獻總目錄

神社讀本（修訂版）　全國神職會編　日本電報通信社　一五、一一、二〇　A5　二四八　一・〇〇
國體の本義　文部省　内閣印刷局　一二、三、三〇　A5　一五六　〇・三五
臣民の道　教學局編纂　内閣印刷局　一六、七、二一　A5　九二　〇・二〇
明治天皇御製謹抄　花田大五郎　子文書房　一六、五、一五　A6　一六四　〇・五〇
家の道　戸田貞三　中文館　一七、一〇、二五　B6　二五四　一・七〇
葉隱讀本　佐賀縣教育會編　子文書房　一六、六、一九　A5　一二二　〇・五〇
體法要項　文部省制定　帝國地方行政學會　一六、四、一　A6　七五　〇・二〇
禮のこゝろ　坂本貞　時代社　一七、一〇、一五　B6　二六〇　一・七〇
昭和國民讀本　徳富猪一郎　東京日々新聞社　一四、二、一一　A5　三〇二　一・〇〇
現時局下の防空　大日本雄辯會講談社　一六、一一、六　B6　一一二　〇・三五

家計の數學	小倉金之助	岩波書店	一三、一一、一一 規格外二四六 ○・五○
家事家計篇（羽仁もと子著作集）	羽仁もと子	婦人之友社	B6 一六、一二、一○ 三六六 一・○○
主婦の生活科學	沼畑金四郎	主婦之友社	B6 一六、三、一九 一七○ ○・五○
新生活と住ひ方	大政翼賛會文化部編	翼賛會圖書刊行會	B6 一七、八、二○ 二一九 一・六○
被服の知識	小川安朗	羽田書店	B6 一七、四、一五 二六四 一・四○
新しい衣服生活	上田柳子	皇國青年教育協會	B6 一七、五、二○ 三三四 二・五○
生活に科學を求めて	富塚清次	春秋社	B6 一六、一○、二五 三三二 一・八○
野の眞珠	和田傳	錦城出版社	B6 一七、七、一○ 三七二 二・○○
大原幽學傳	高倉テルヱ	日本評論社	B6 一六、九、一○ 二三二 一・六○
野の英哲二宮尊德	菅原兵治	偕成社	B5 一七、二、一 二三○ 一・六○
戰ふ國の生活	石井良一	盟館	A5 一七、六、二五 二四六 二・○○
日本名婦傳	吉川英治	全國書房	B6 一七、一、二○ 三三三 一・八○

教育者としての母	兒玉九十	主婦之友社	B6 一四、二、一 三四五 一・五○
主婦の教養	浅香淳	秋社	B6 一六、一一、二○ 八五 ○・六○
母心抄	西村花子	村岡書房	B6 一七、一○、五 三○○ 一・八○
母心	友松圓諦	成社	B6 一四、一○、八 三四五 一・五○
母の勝利	偕成社		B6 一七、九、五 二○一 一・五○
お母さんは	八波則吉	英進社	B6 一七、九、二○ 一三八 ○・八○
若き母に贈る	小住清水	七五三書房	B6 一四、五、二五 三三六 一・四○
砂丘の蔭に	伊藤敬	福部敬子	B6 一五、九、一 四四七 二・○○
若き女性の問題	吉田喜久	長崎書店	B6 一七、一、一○ 一六三 ○・五○
みかへりの塔	三谷啓	同文館出版部	B6 一四、一一、一二 三三四 一・八○
光に生きる娘達	熊野隆	豐島與志雄	B6 一七、七、二○ 三○○ 一・七○
次郎物語	下村湖人	春陽堂書店	B6 一七、三、一 三七○ 一・八○
	小山書	東福代隆子	

續次郎物語	下村湖人	小山書店	B6 一七、八、五 三四七 一・八〇
この母・この子	宮瀬睦夫	第一公論社	B6 一六、一二、二四 二三九 一・五〇
幸福なる生活	本田静六	主婦之友社	B6 一六、一〇、四 二九一 一・六〇
茶味	奥田成正	光造社	B6 一六、一一、三 一三七 一・〇〇
萬葉秀歌（上卷、下卷）	齋藤茂吉	岩波書店	一三、一二、一〇 規格上二五九 外下二三四 各〇・五〇
萬葉集物語	森岡美蘭	金子社	B6 一六、一二、二〇 四一〇 一・九〇
父母恩重經講話	高神覺昇	大日本雄辯會講談社	B6 一六、一二、二二 一六七 一・〇〇
人生讀本	岡本かの子	大東出版社	B6 一七、八、二〇 二五八 一・八〇
日本女性美史	岡成志	佃書房	B6 一七、九、二〇 三二七 一・七〇
花ある職場へ	奥むめお	交明社	B6 一六、八、五 二三八 一・三〇
新訂 榮養讀本	鈴木梅太郎共著	井上書院	A5 一六、七、二〇 三〇六 一・五〇
母と子の榮養學	日本評論社	大森之友社	B6 一七、六、一〇 三四四 一・三〇

僕らの榮養と食物	川島四郎	誠文堂新光社	B6 一五、九、一 三一八 二・〇〇
農村榮養共同炊事の手引	森田正直共著	増田規矩共著	B6 一四、九、六 二七九 一・〇〇
教育紙芝居講座（全一卷）	佐藤新興生活館	松永健哉	元宇館 B6 一六、一一、二五 二一七 一・三〇
これからの國民娯樂	渡邊登	南方喜雄	書院 B6 一七、七、一五 二〇七 一・四〇
國民娯樂の問題	權田保之助	栗田書店	B6 一六、七、一五 三〇八 二・四〇
村の人形芝居	松葉重進	増田廣堂	A5 一七、一二、一 一八五 一・三〇
精神衞生講話	下田光造	岩波書店	B6 一七、一〇、一五 四一〇 二・八〇
結婚と人口	岡崎文規	千倉書房	A5 一七、二、一〇 二四二 二・三〇
日本人口問題	岡崎文規	目黒書店	B6 一六、八、二〇 一六三 〇・五〇
病氣の正體（ラヂオ新書 32）	猪方富雄	日本放送出版協會	A6 一六、一一、一〇 一五五 〇・五〇
學童と結核	原島進	佐藤博共著	B6 一七、五、一〇 二九八 三・二〇
職業婦人の醫學	目黒佐太郎	萬里閣	佐藤實 B6 一七、一、一〇 二七二 一・八〇

母の愛育全集	主婦之友社		
第一卷 乳兒の卷	一六、四、三〇	三八八	
第二卷 乳兒の卷	一六、六、一五	三八八	
第三卷 兒童の卷（上）	一六、七、三一	三七六	
第四卷 兒童の卷（下）	一六、八、三〇	三七八	
第五卷 少年少女の卷	一六、九、三〇	三八二	
愛育のてゝろ	恩賜財團愛育會編	三省堂	B6 各册 一・五〇
父親と育兒	齋藤文雄	羽田書店	B6 一五、一一、一〇 二九四 一・〇〇
幼兒心理學	山下俊郎	松堂	B6 一七、六、二〇 一八八 一・四〇
少國民の心理と文化	關計夫	松堂	B6 一三、七、五 四〇三 二・五〇
青年の心理	牛島義友	松堂	A5 一七、八、二〇 四〇一 三・八〇
育ての心	倉橋惣三	江書院	A5 一五、七、一五 二八一 二・八〇
幼兒の心理と教育	乃木正安	江書院	B6 一一、一二、五 三〇二 一・五〇
幼兒の生活と教育	三木安正	厚生閣書院	B6 一七、二、二五 一五〇 一・三〇
婦人之友社編	婦人之友社		A5 一四、三、一五 二二一 〇・八〇
家庭に於ける子供の鍛練	青木誠四郎	主婦之友社	B6 一七、一一、一〇 三六六 一・五〇
子に學ぶ母の記	飛田はつ子	主婦之友社	B6 一六、五、二二 三四七 一・五〇
愛兒の教育相談	田中寅一	培風館	B6 一四、一一、一〇 二八二 一・五〇
愛兒の爲の科學教育の躾け方	栗山重一	研究社	A5 一七、一、一〇 二三八 一・五〇
幼兒の科學教育と其の指導	小池喜代藏	育嬰協會	B6 一七、九、三〇 一六五 一・三〇
子供の描く繪の導き方	古家新	勝川弘文社	B6 一七、三、二八 二五六 一・八〇
音感教育への理解	酒田富治	刀江書院	B6 一七、二、一 一〇二 〇・六五
日本の家庭教育	岡村國造	新小説社	B6 一五、一〇、二〇 三六七 一・六〇
國民學校と家庭教育	坂本一郎	第一公論社	B6 一六、四、一三 三七二 一・六〇
國の子の家庭教育	飛田多喜雄	新潮社	A5 一七、七、七 三三二 二・二〇
國民學校母の會の實踐	久保井亀藏	酒田書店	B6 一六、一一、一〇 二一四 一・三〇
兒童公園	末田まさす	水書房	B6 一七、七、三〇 二六五 一・五〇

實踐季節保育所	根岸雅苗	一六、一二、一	
村の保育所	山川草房	A5 四二九	三・五〇
結婚訓	川崎大治	一七、五、二七	
	東京講演會出版部	B6 三三九	二・三〇
明るい人事調停	穂積重遠	一六、一〇、二〇	
	中央公論社	A5 二〇八	一・五〇
民法 Ⅱ	生田花世	一七、一、一五	
	鶴書房	B6 二五〇	一・五〇
	中川善之助	一六、四、一五	
	岩波書店	A6 三四三	〇・八〇

以上 八九册

二 家庭教育圖書群

(1) 未婚有職婦人向圖書

イ 一〇圓程度ノモノ (一一圓二五錢)

明治天皇御製謹抄	花田大五郎	〇・五〇
家の道	戸田貞三	一・七〇
父母恩重經講話	高神覺昇	一・〇〇
現時局下の防空	難波三十四	〇・三五
新訂 榮養讀本	鈴木梅太郎共著	
萬葉秀歌 (上)(下)	井上象雄共著	一・五〇
茶味	齋藤茂吉	一・〇〇
禮のこころ	奥田正造	一・〇〇
病氣の正體	坂本貞	一・七〇
	猪方富雄	〇・五〇

家計の數學　小倉金之助　〇・五〇
結婚訓　羅積重遠　一・五〇

ロ　三〇圓程度ノモノ　（二九圓一五錢）
（一〇圓程度ノモノニ以下ノ圖書ヲ加フ）

神社讀本　全國神職會編　一・〇〇
幸福なる生活　本田勝六　一・六〇
日本女性美史　岡成志　一・七〇
人生讀本　岡本かの子　一・八〇
戰ふ國の生活　石井良一　二・〇〇
生活に科學を求めて　富塚清　一・八〇
被服の知識　小川安朗　一・四〇
職業婦人の醫學　佐藤美實　一・八〇
光に生きる娘達　東福藍子　一・七〇

次郎物語　下村湖人　一・八〇
花ある戰場へ　奥むめお　一・三〇

(2)
一般主婦向圖書

（一）農山漁村主婦向

イ　一〇圓程度ノモノ　（一〇圓〇五錢）

禮法要項　文部省制定　〇・二〇
昭和國民讀本　御園猪一郎　一・〇〇
現時局下の防空　藤波三十四　〇・三五
家事家計篇　羽仁もと子　一・〇〇
母と子の榮養學　大森意太　一・三〇
母の勝利　八波則吉　一・五〇
主婦の教養　淺香ゆき　〇・六〇
愛育のこころ　恩賜財團愛育會編　一・〇〇

日本の家庭教育　岡村匡造　一・六〇
結婚訓　穂積重遠　一・五〇

ロ　三〇圓程度ノモノ　（三一圓五五錢）
（一〇圓程度ノモノニ以下ノ圖書ヲ加フ）

僕らの榮養と食物　川島四郎　二・〇〇
新しい衣服生活　上田柳子　二・五〇
母の愛育全集　主婦之友社　七・五〇
愛兒の教育相談　田中寛一　一・五〇
愛兒のための科學教育の躾け方　栗山重　一・五〇
萬葉集物語　森岡美子　一・九〇
葉隱讀本　佐賀縣教育會編　〇・五〇
お母さんは　小住七五三　〇・八〇
日本名婦傳　吉川英治　一・八〇

この母、この子　宮濱睦夫　一・五〇

（二）都市主婦向

イ　一〇圓程度ノモノ　（一二圓二五錢）

禮法要項　文部省制定　〇・二〇
昭和國民讀本　德富猪一郎　一・〇〇
現時局下の防空　難波三十四　〇・三五
家事家計篇　羽仁もと子　一・〇〇
主婦の教養　淺香ゆき　〇・六〇
幸福なる生活　本田靜六　一・六〇
母の勝利　八波則吉　一・五〇
愛育のこころ　恩賜財團愛育會編　一・〇〇
國の子の家庭教育　飛田多喜雄　二・二〇

母と子の榮養學　大森憲太　一・三〇
續婚訓　穂積重遠　一・五〇

ロ　三〇圓程度ノモノ　（三〇圓二五錢）
（一〇圓程度ノモノニ以下ノ圖書ヲ加フ）

臣民の道　敎學局編纂　〇・二〇
主婦の生活科學　沼畑金四郎　〇・五〇
新しい衣服生活　上田柳子　二・五〇
敎育者としての母　兒玉九十　一・五〇
若き女性の問題　三田谷啓　〇・五〇
萬葉集物語　森岡美子　一・九〇
葉隱讀本　佐賀縣敎育會編　〇・五〇
茶味　奥田正造　一・〇〇
育ての心　倉橋惣三　一・五〇

幼兒の生活と敎育　婦人之友社　〇・八〇
幼兒の心理と敎育　三木安正　一・三〇
家庭に於ける子供の鍛錬　青木誠四郎　一・五〇
愛兒のための科學敎育の躾け方　栗山重　一・五〇
幼兒の科學敎育とその指導　小池喜代藏　一・三〇
愛兒の敎育相談　田中寛一　一・五〇

ハ　六〇圓程度ノモノ　（五九圓三〇錢）
（三〇圓程度ノモノニ以下ノ圖書ヲ加フ）

日本名婦傳　吉川英治　一・八〇
母心　友松圓諦　一・五〇
お母さんは　小住七五三　〇・八〇
禮の心　坂本貞　一・七〇
若き母に贈る　伊福部敬子　一・四〇

幼兒心理學　山下俊郎　二・五〇
父親と育兒　齋藤文雄　一・四〇
子に學ぶ母の記　飛田しげ子　一・五〇
子供の描く繪の導き方　古家新　一・八〇
音感教育への理解　酒田富治　〇・六五
次郎物語　下村湖人　一・八〇
續次郎物語　下村湖人　一・八〇
みかへりの塔　熊野隆治　豐島與志雄　一・八〇
光に生きる娘達　東福隆子　一・七〇
病氣の正體　猪方富雄　〇・五〇
新生活と住ひ方　大政翼贊會文化部編　一・六〇
家計の數學　小倉金之助　〇・五〇
戰ふ國の生活　石井良一　二・〇〇

結婚と人口　岡崎文規　二・三〇

(3) 指導者向圖書

(一) 農山漁村向

イ　三五圓程度ノモノ　(三五圓四〇錢)

神社讀本　全國神職會編　一・〇〇
國體の本義　文部省　〇・三五
臣民の道　教學局編纂　〇・二〇
明治天皇御製謹抄　花田大五郎　〇・五〇
家の道　戸田貞三　一・七〇
現時局下の防空　難波三十四　〇・三五
日本の家庭教育　岡村匡造　一・六〇
禮法要項　文部省制定　〇・二〇

家事家計篇	羽仁もと子	一・〇〇
被服の知識	小川安朗	一・四〇
戰ふ國の生活	石井良一	二・〇〇
野の英哲二宮尊德	菅原兵治	一・六〇
野の眞珠	和田傳	二・〇〇
葉隱讀本	佐賀縣敎育會編	〇・五〇
農村榮養共同炊事の手引	森川規矩之 増田正直共著	一・〇〇
敎育紙芝居講座（全一卷）	松永健哉	一・三〇
これからの國民娛樂	渡邊登喜雄	一・四〇
村の人形芝居	松葉重庸	一・三〇
日本人口問題	岡崎文規	〇・五〇
愛育のこころ	恩賜財團愛育會編	一・〇〇
家庭に於ける子供の鍛錬	青木誠四郎	一・五〇

幼兒心理學	山下俊郎	二・五〇
少國民の心理と文化	關計夫	三・八〇
國民學校と家庭敎育	坂本一郎	一・六〇
國民學校母の會の實踐	久保田龜藏	一・三〇
村の保育所	川崎大治	二・三〇
結婚訓	穗積重遠	一・五〇
ロ 六〇圓程度ノモノ（六一圓五〇錢）（三〇圓程度ノモノニ以下ノ圓書ヲ加フ）		
敎育者としての母	兒玉九十	一・五〇
砂丘の蔭に	吉田喜久代	二・〇〇
禮のこころ	坂本貞	一・七〇
大原幽學傳	高倉テル	一・六〇
青年の心理	牛島義友	二・八〇

愛兒の教育相談　田中寛一　一・五〇
愛兒のための科學教育の躾け方　栗山重　一・五〇
學童と結核　原島進　志佐博共著　三・二〇
病氣の正體　緒方富雄　〇・五〇
新生活と住ひ方　大政翼贊會文化部編　一・六〇
國民娯樂の問題　權田保之助　二・四〇
實踐季節保育所　根岸草苗　三・五〇
明るい人事調停　生田花世　一・五〇
民法（一）　中川善之助　〇・八〇
（二）都市向　全國神職會編　一・〇〇
イ　三五圓程度ノモノ（三四圓五〇錢）
神社讀本　文部省　〇・三五
國體の本義

臣民の道　教學局編纂　〇・二〇
明治天皇御製謹抄　花田大五郎　〇・五〇
家の道　戸田貞三　一・七〇
現時局下の防空　難波三十四　〇・三五
葉隱讀本　佐賀縣教育會編　〇・五〇
國の子の家庭教育　飛田多喜雄　二・二〇
國民學校と家庭教育　坂本一郎　一・六〇
禮法要項　文部省制定　〇・二〇
昭和國民讀本　德富猪一郎　一・〇〇
家事家計篇　羽仁もと子　一・〇〇
家計の數學　小倉金之助　〇・五〇
戰ふ國の生活　石井良一　二・〇〇
主婦の生活科學　沼畑金四郎　〇・五〇

被服の知識　小川安朗　一・四〇
病氣の正體　緒方富雄　〇・五〇
教育紙芝居講座（全一卷）　松永健哉　一・三〇
愛育のこころ　恩賜財團愛育會編　一・〇〇
幼兒心理學　山下俊郎　二・五〇
少國民の心理と文化　關計夫　三・八〇
幼兒の生活と教育　婦人之友社　〇・八〇
父親と育兒　齋藤文雄　一・四〇
愛兒の教育相談　田中寛一　一・五〇
國民學校と家庭教育　坂本一郎　一・六〇
國民學校母の會の實踐　久保田龜藏　一・三〇
結婚訓　穂積重遠　一・五〇
結婚と人口　岡崎文規　二・三〇

ロ　六五圓程度ノモノ（六四圓三〇錢）
（三〇圓程度ノモノニ以下ノ圖書ヲ加フ）

生活に科學を求めて　富塚清　一・八〇
新生活と住ひ方　大政翼賛會文化部編　一・六〇
學童と結核　原島進・佐藤博共著　三・二〇
國民娯樂の問題　志賀田保之助　二・四〇
これからの國民娯樂　渡邊登喜雄　一・四〇
日本人口問題　岡崎文規　〇・五〇
青年の心理　牛島義友　二・八〇
育ての心　倉橋惣三　一・五〇
愛兒の爲の科學教育の躾け方　栗山重　一・五〇
幼兒の科學教育とその指導　小池喜代藏　一・三〇
精神衛生講話　下田光造　二・八〇

みかへりの塔　熊野隆治共著　一・八〇
光に生きる娘達　豐島與志雄共著
兒童公園　東福隆子　一・七〇
禮のこころ　末田ます　一・五〇
明るい人事調停　坂本貞　一・七〇
民法（Ⅱ）　生田花世　一・五〇
中川善之助　〇・八〇

三内容主目別分類

(1) 皇國民たるの自覺、我が國に於ける家の特質の闡明竝に其の使命の自覺に資するもの

神社讀本　全國神職會編
國體の本義　文部省
臣民の道　教學局編
明治天皇御製謹抄　花田大五郎
家の道　戸田貞三
昭和國民讀本　德富猪一郎
戰ふ國の生活　石井良一
結婚と人口　岡崎文規
日本人口問題　岡崎文規
結婚訓　穗積重遠

(2) 健全なる家風の樹立に資するもの

葉隱讀本	佐賀縣敎育會編
禮法要項	文部省制定
禮のこゝろ	坂本貞
日本名婦傳	吉川英治
幸福なる生活	本田勝六
茶味	奥田正造
日本の家庭敎育	岡村匡造
國民學校と家庭敎育	坂本一郎
國の子の家庭敎育	飛田多喜雄

(3) 母の敎養訓練に資するもの

敎育者としての母	兒玉九十
主婦の敎養	淺香ゆき

母心抄	村岡花子
母心	友松圓諦
母の勝利	八波則吉
お母さんは	小住七五三
若き母に贈る	伊福部敬子
この母この子	宮瀨睦夫
母の愛育全集（五卷）	主婦之友社
育ての心	倉橋惣三
子に學ぶ母の記	飛田しげ子
國民學校母の會の實踐	久保田龜藏

(4) 子女の薫陶養護に資するもの

若き女性の問題	三田谷啓
みかへりの塔	難野臨治
	豐島與志雄

光に生きる娘達　東福藍子
次郎物語　下村湖人
續次郎物語　下村湖人
萬葉秀歌（上）（下）　齋藤茂吉
萬葉集物語　森岡美子
父母恩重經講話　高神覺昇
人生讀本　岡本かの子
日本女性美史　岡成志
花ある戰場へ　奥むめお
戰業婦人の醫學　佐藤美實
愛育のこゝろ　恩賜財團愛育會編
父親と育兒　齋藤文雄
幼兒心理學　山下俊郎

小國民の心理と文化　關計夫
青年の心理　牛島義友
幼兒の心理と教育　三木安正
幼兒の生活と教育　婦人之友社編
家庭に於ける子供の鍛錬　青木誠四郎
愛兒の教育相談　田中寛一
愛兒の爲の科學教育の躾け方　栗山重
幼兒の科學教育と其の指導　小池喜代蔵
子供の描く繪の導き方　古家新
音感教育への理解　酒田富治

(5)　隣保相扶、新生活文化の樹立に資するもの

現時局下の防空　難波三十四
野の眞珠　和田傳

大原幽學傳　高倉テル
野の英哲二宮尊德　菅原兵治
砂丘の蔭に　吉田喜久代
農村榮養共同炊事の手引　森川規矩
教育紙芝居講座（全一卷）　增田正直
これからの國民娯樂　松永健哉
國民娯樂の問題　渡邊登喜雄
村の人形芝居　權田保之助
兒童公園　松葉重庸
實踐季節保育所　末田ますす
村の保育所　根岸草笛
明るい人事調停　川崎大治
民法（Ⅱ）　生田花世
　　中川善之助

(6) 家庭生活の刷新充實に資するもの

家計の數學　小倉金之助
家事家計篇　羽仁もと子
主婦の生活科學　沼畑金四郎
新生活と住ひ方　大政翼賛會文化部編
被服の知識　小川安朗
新しい衣服生活　上田柳子
生活に科學を求めて　富塚清
新訂榮養讀本　鈴木梅太郎
母と子の榮養學　井上泉雄
僕らの榮養と食物　大森憲太
精神衛生講話　川島四郎
病氣の正體　下田光造
　　緒方富雄

學童と結核

原島佐志
進博

四 家庭教育參考文獻內容解說

神社讀本(修訂版)

全國神職會編　昭和一五、一一、二〇
日本電報通信社　A5二四八頁　一・〇〇

本書は國民一般に正しい神社觀念と皇道の本質を普及徹底せしめんとする趣旨から作られたものである。卷頭には神祇に關する神勅詔勅を謹揭し神祇觀念の由來の深さを知らしめ、第一章敬神の大義を始めとし、肇國の由來、國體の本義、國體と祭祀、國家と神社、神社の祭祀、神社と鄕土、神社と氏子の八章に亘つて解り易く說かれてゐる。寫眞や圖解の多いことも理解を容易ならしめる。敬神崇祖の尊むべき、祭祀の重んずべきことを敎へ、共通なる國民的感情を養ふ上に缺くべからざる良書である。なほ附錄の一つには皇典講究所制定になる「家庭祭祀の行事作法」を收錄して家庭に於ける實踐に備へてある。

國體の本義

文部省　昭和一二、三、三〇
内閣印刷局　A五一五六頁〇、三五

大日本帝國は、萬世一系の天皇皇祖の神勅を奉じて永遠にこれを統治し給ふ。これ我が萬世不易の國體であり、この大義に基づいて一大家族國家として億兆一心聖旨を奉體して克く忠孝の美德を發揮する、これ我が國體の精華である。

この本義は我が國家に確として內在し乍らも、明治以來七十年、餘りにも急激に多種多樣な歐米の文物、制度、學術を輸入したことは勿もすれば本を忘れて末に趨らしめ、嚴正な批判を缺き、徹底した醇化をなさしめない怨があつた。そこに生じた困難を打開し外來文化の醇化と新日本文化の創造とを期するには先づ國體の本義に透徹しなければならない。本書の生れた理由も亦こゝに存するのである。

我が國に於ける家の特質を明かならしめ其の使命の自覺を促すことも亦國體の本義でなければならない。本書の缺くべからざる所以である。なほ本書には幾多の解說書が出版せられてゐる。

臣民の道

敎學局編纂　昭和一六、七、二一
内閣印刷局　A五九二頁　〇・二〇

皇國臣民としての自覺に徹底せしめ、國家奉仕を第一義とする皇國臣民の道を昂揚實踐せしむることを目標として作られた書である。その第一章は世界新秩序の建設と題し、歷史的展望から現時局を解明し、それに對處する心構への確立を說いてゐる。第二章は國體と臣民の道と題し、光輝ある國體と我が國の使命を說き、皇運を扶翼し奉るべき臣民の道を明にし、祖先の遺風を承けてこの時局下に御奉公の覺悟を新にすべきを促してゐる。第三章臣民の道の實踐と題し、皇國臣民としての修練と、國民生活の現實面に於て我等何をなすべきかを說いてゐる。こゝに我が國の本質が明にせられ、家の敎育のあるべき姿、一家の生活に於て强調せらるべき事が敎へられてゐるのである。本書には多數の註釋本が出來てゐる。

明治天皇御製謹抄

花田大五郎　昭和一六、五、一五
子文書房　A六一六四頁　〇・五〇

此の書は、明治天皇の御製を「折にふれて」「天」「道」「仁」と云ふ風に種々な題目の下に掲げ、極く簡單に註釋を加へ、その後に古人の言を引用し、道義の精神を說いてゐる。もともと學生の爲に書かれたもので學生に對し至誠の道を敎へ、勇氣と勵しを與へんとしたものであるが、分り易く直ちに御製の意を拜察出來る故に母親にも薦めたい。國の大御寶を育て上げ、國家を家を强く守つて行く上に大切な母の修養書として、又婦人の處世訓として、日夜拜誦するに適當なものである。

家の道

戸田貞三著　昭和一七、一〇、二五
中文館　B6二五四頁　一・七〇

著者は帝國大學敎授で社會學專攻の士であり、殊に多年家に關する研究を爲し來つた人である。本書は昭和十七年五月に發表された文部省の「戰時家庭敎育指導要項」に準據し、著者も云つてゐるが如く、その制定の根本方針を尊重しつゝ著者の意のあるところを述べたものである。從つて著者が年來明にし來つた家に就いての實證的研究結果が基礎として置かれ、理想論はそれと調和せしめられてゐるといふか或ひはその基礎の上に發展せしめられてゐるといつてよいのである。かやうに家に關する事實、家の持つ特質に深く根ざしての論は本書の特色であり、本書を價値づけるものであらう。なほ本書には國史や古典文學からの資料が豊富に用ひられてゐるが、最新の出版にかゝるものだけに最近に展開された戰場並に銃後の諸事情をよく取り入れ、戰時家庭敎育の指導に適切なるものたらしめられてゐる。家庭敎育の指導者はもとより眞に家が何であるかを學ばんとするもののどうしても讀まなければならないものである。

葉隱讀本

佐賀縣敎育會編　昭和一六、六、一九
子文書房　A5一二二頁　〇・五〇

佐賀藩の葉隱は支那事變の始まつた頃から急に人口に膾炙するやうになつて來た。時代が葉隱の精神を要求すること切なるものがあるからである。鍋島の殿樣の偉さとその臣下の誠忠とは、日本精神の立派さを九州の一角に結晶せしめたと言つてよい。

葉隱の中にいふ主君とは鍋島の殿樣のことであり、その國學とは佐賀藩の學問の意味であるが、そこに見出される至誠至忠の精神は正に古今を貫いて日本に妥當するものである。我が國に於ける家の使命の自覺にも、健全なる家風の樹立にも原理的に寄與するところ大なるものがある。

この葉隱讀本は佐賀縣敎育會の編纂になるものであるが、讀み易い大きな活字で僅か百頁程の間

によくその精髄を傳へてゐる。

禮法要項

文部省制定　昭和一六、四、一
帝國地方行政學會　七五頁A6　〇・二〇
（種々の刊本あり）

禮を正すは國體の本義を明かにし、社會の秩序を維持する所以である。禮を形に表すのは禮法である。禮法は我が國民生活の軌範として凡ての教養の基礎となるものである。

この禮法要項は一般國民の日常心得べき禮法の規準として制定せられたものである。前篇、後篇に分たれ、前篇では諸禮法に通ずる基本的な事項を掲げ、後篇では國家、皇室に關する禮法、家庭生活に關する禮法、社會生活に關する禮法の三大部に分けて記述がなされてゐる。

家庭は特に禮法修練の始をなし、且つ禮法體得の基をなすものである。各家庭必ず一本を備へなければならないものであらう。刊本は種々あり、又解説書も多く出來てゐる。

禮のこゝろ

坂本貞著　昭和一七、一〇、一五
時代社　B6二六〇頁　一・七〇

本書は、この著者が序の中に「これまでらくな氣持で讀める禮法の書はあまり見當らず、何となく、嚴しい近づきにくいもののやうに思ひ込まれて特別の關心をよせない限り繙いてみる機會がないといふものでした」と言つてゐるやうに、確に現代の人々が求めてゐるものとは大分距りのある憾みがあつた。

ところが、著者はその點をよく摘んで、形式に捉れず日常生活の到る處に禮のこゝろは見出され禮は決して袴をつけたものではないといふことを古今の例をとつて、話しかける樣に筆を進めてゐるので、樂しい氣持で讀まれると同時に、決して禮の本質を見失はない床しい氣持に惹き入れられてゆくのは、本書のもつ力强いところであらう。一般教養の書として推薦いたしたい。

昭和國民讀本

德富猪一郎著　昭和一四、二、一一
東京日々新聞社　A5三〇二頁　一・〇〇

本書は國民の時局に對する心構への確立の爲に書かれたものである。先づ明治、大正、昭和の三代を展望し「一言にして盡さば明治は始め、大正は守り、昭和は之を遂ぐ。昭和御代の任務は明治皇政維新の大目的を徹底的に成就するにあり。その大目的とは皇室中心主義を以て國内を統一し、

一君萬民の實を擧げ、統一したる國力を擧げて皇道を世界に宣揚することである。而してその第一程は實に東亞の興隆に存す」と述べてゐる。著者は精神的武裝の必要を說き、日本學を修めなければならないことを詳說し、歷史の舞臺に於ける國際關係を明かにし、亞細亞人の亞細亞を唱へ、日本の進むべき困難ではあるが偉大なる道を說いて國民の覺悟を促してゐる。本書の書かれた時以來時勢は旣に大轉回をなしてゐるが、その轉回は全く本書に說かれた方向に向つてであるが故に、本書の國民讀本としての價値は愈々高く評價さるべきであらう。

現時局下の防空

難波三十四著　昭和一六、一一、六
大日本雄辯會講談社　B6　一一二頁　〇・三五

本書は一般國民に對し防空の必要性を自覺せしめ、その大要を說き困難なる我が國の空襲判斷を明らかにして、いかなる心構へと準備訓練をなすべきかを敎へ、且世上恐るるが如き事態の絕對起らざる所以を述べ、特に防空上の精神的方面に主力を注ぎ指導啓發せる點は現在の防空關係類書中の白眉である。廣く國民必讀の書として薦める。

家計の數學

小倉金之助著　昭和一三、一一、一一
岩波書店　規格外二四六頁　〇・五〇

本書は、岩波新書の一であつて、著者は數學敎育に關して造詣深い人である。

內容は、國民大衆の間に科學の精神——數學的な見方、考へ方、取扱ひ方——を廣く行き渡らせしみ込ませたいといふ精神を根本として出來てゐる。

今日の家庭生活の合理化、科學化の要請を正しい方向に向はしむる爲にこのことの必要であることは多言を要しないところである。

而して採り上げられてゐるものは、我々の日常生活に最も緣の深い家計の事柄であるところの「收入と生計費」「利殖の計算」「生命保險」と云ふ三つの具體的問題である。

國民學校高等科、靑年學校程度の算術に代數入門の知識があれば充分理解出來る樣に、數學的基礎知識を懇切に敎へながら話が進められてゐる所に特色がある。一見迂遠に思はれる所もあるかも分らないが、初めに述べた根本精神を體得するために、止むを得ない事であるばかりでなく、かへつて大切なこととといはなくてはならない。「消費の數學」であるこの書を、消費節約、貯蓄の國家的

に重要である今日、都市の主婦及び家庭教育指導者の一讀すべき書として推薦したい。

家事家計篇（羽仁もと子著作集）

羽仁もと子著　昭和一六、一二、一〇
婦人之友社　B6三六六頁　一・〇〇

國家に於て經濟が根本である如く、家に於ては家事家計が中心である。然るに家庭生活に於ては家の經濟生活や家事一般は計畫なく、反省なく、習慣的に日々を繰返す事が多い。この時この本はこの家事家計の生活に科學的な鋭いメスを入れ、計畫し、實踐し、反省する方法を示してゐる。

先づ一般的に豫算生活を提唱する。豫算は經濟生活に於ける理想であり、豫算なき生活は理想なき生活である。而して上手に家計簿をつけることにより、收支をその量のみならず、收入及びゝ出の種類が明かにされ、家の經濟全體が一目瞭然となり、家計の現狀、從つて又缺點が明かにされる。家計に豫算生活の必要である如く、家事に於ては豫算生活を提唱する。一日の仕事の時間のみならず一週間の仕事の割當、一ケ月一年の仕事の配分を豫め定めて之に隨つて生活する。從つて時間を合理的に使ふことが出來る。

第三は家事一般を見る實證的な科學精神である。例へば家の中が整頓されないといふ事實があると何故整頓されないかを反省する。

そしてそれは各自が夫々使つた物を使ひ放しにする事にある事を發見し、物の置き場所を定めて各自使つたものはそこに戻す事の實踐により家中は何時も整頓された狀態に置き得ると言ふ。

凡てがこの科學精神により指導されてゐる。

之から家を持つ者は必ず一讀せねばならぬ書物であり、既に家を成してゐる者も一讀して反省すべき書物である。

主婦の生活科學

沼畑金四郎著　昭和一六、三、一九
主婦之友社　B6一七〇頁　〇・五〇

本書は著者が家庭と科學との提携を叫ぶ事二十餘年、長年の主張を理論と實際の兩方面から取り扱つて書かれたものである。

とかく生活の刷新とか、合理化とか、生活の新體制が盛んに唱へられて居り、一家の消費生活が最早國家の經濟組織と密接な結びつきの下にある今日、主婦が生活を科學的に處理して行く事の如何に重要であるかは既に周知の事實であるが、兎角精神的方面に止まり實際日常生活に實行される

點が尠くなかつた樣に思はれる。

この書を讀むと流石に日常生活にある事柄を取り擧げてゐるので理解も早く、興味深く一家の臺所を樂しく科學的に處理する事が出來る。一般女性、主婦の書として推薦する。

新生活と住ひ方

大政翼賛會文化部編　昭和一七、八、二〇
翼賛會圖書刊行會　B6二一九頁　一・六〇

生活の內容が變れば生活樣式としての住宅も亦改められねばならない。戰時下の新生活に對する新樣式としての住宅の改善が亦從つて考へられねばならぬ。併し今迄の住宅に關する書物は主として新しい住宅を建築しようとする人の爲の住宅建築法であつたのに對し、本書は住宅を「住ひ方」の立場から根本的に考へようとする人にとつても根本的に必要な事であるが、借家に住む人にとつても、與へられた家を如何に住みこなすかについて敎へる點が多い。本書は翼賛會主催の座談會の記錄であるから色々の立場による對立があつて解決された結論が未だ與へられぬ場合も多い。それ故一般主婦には必ずしも適しないにしても指導者はそれ〴〵の立場の生活文化、住宅文化の長所短所に充分通じて住ひ方の立場から住宅の問題を考へて行くのに大いに參考になると思ふ。

被服の知識

小川安朗著　昭和一七、四、一五
羽田書店　B6二六四頁　一・四〇

着物の縫ひ方や、色や模樣に關する知識は豐富に持つてゐても、一段深く掘り下げて被服の本質例へばその歷史、保溫、防暑に關しては無知な人が多い。生活を科學化する爲には、この被服の本質について考へ直し、それに基いて改良する事が必要である。本書はかかる點に關して、極めて平易に而も適切に說明してゐる。即ち被服の歷史や風俗に關しては氣候風土と關係して合理的に說明すると共に、興味多き圖版によつて面白く理解させてゐる。被服の色や形に關しては、單に流行を追ふ代りに、色彩狀態の與へる感情、表情を明かにしてゐる。保溫、防暑や婦人の作業服に關しては改善すべき衣服生活を具體的に敎へ、更に被服の保存、再生に關しても懇切に說明してある。家庭主婦並に指導者の一讀すべき書である。

新しい衣服生活

上田柳子著　昭和一七、五、二〇
皇國青年敎育協會　B6三三四頁　二・五〇

時局下、衣服の問題は主婦に課せられた重大問題であらう。日々の生活の凡ゆる點から、又その資源の上から本氣に考へるならば、誰でも現狀の衣服生活をそのまゝ續けることの困難、といふよりは銃後を守るものゝ道でない事に氣付く筈である。併し實際に當面しては長年の習慣から、衣食住の中で最も舊套を脱し難い惱みを感ずるものがこの「衣服」の問題のやうに思はれる、この時本書は懇々と衣服に對する新しき理念を說き、綿密な實際方法を指導してゐる。

衣料切符制の解說、時局下にふさはしい新婦人服、衣服の新しい原料、衣服經濟の更新、時局と主婦の覺悟等の內容から、世の主婦は必ず衣服に對する認識を深め知識を啓發され、新しい衣服生活に對する希望を持せられるに違ひない。附錄とされてある「病衣の取扱方」等に至るまで誠に行屆いた書である。

生活に科學を求めて

富塚　清著　昭和一六、一〇、二五
文藝春秋社　B6三三二頁　一・八〇

著者は東大工學部教授、本書は科學のある生活とは、樂しみも科學と共に、科學を國民のためのものとするためにの三部よりなり、第一部は科學的な生活態度に關し、第二部は健康增進乃至は

娯樂と科學に關し、第三部は科學政策乃至は科學的性格に關し、それ〴〵既に雜誌等に發表せる所說を集錄したものである。

科學の眞諦は生活と迂遠なる處にあるものではなく、又單なる物質文明を招來すべきものではないことを道破し、又現時の科學振興の叫びが形式化して、反つて科學精神を鈍磨せしめる懼あるを知らしむる等、高處よりする批判精神は一般に指導者たるものに不可缺のものであると共に、著者自身の科學的態度はその精神を裏附けて、所論に迫力を與へてゐる。

野の眞珠

和田傳著　昭和一七、七、一〇
錦城出版社　B6三七二頁　二・〇〇

本書は我國に於ける產業組合の先覺者であり、不世出の篤農家である清水及衞翁の生涯を書いた小說である。幼にして戶主となつた及衞が農家の經營に心血を注ぎ、部落を鳩合して協同組合を結成し、貧困の原因を探求して共存共榮の大道を邁進し、農業の本態を究明する。

その間日淸戰役の前後より昭和に涉る時代の流れに、常に卒先して新知識の吸收、吟味と普及に努め、資本主義の强壓に抗して產業組合運動に挺身し、赤化思想の潛入に對しては皇國農民の道を

說き、更に加藤完治氏の協力者となつて開拓農民の育成に當る等、一面に於て我國農業の推移を身を以て物語ると同時に皇國農村の行くべき姿を示してゐる。

その農業に對する根本觀念は、我國古來の家族制度の上に立つて、隣保協同の精神を鼓吹し、勤勉、親切、知識、技能を尊重する。又特に衆を率ゐてその陣頭に立ち工夫創造と實踐的態度を以て事に當るところは農民指導者の資質として範とすべき處を敎示してゐる。

大原幽學傳

高倉テル著　昭和一六、九、一〇
アルス　B6二三二頁　一・六〇

日本の農村が立派に生き拔いて行く爲にはいろいろの面からの反省と改良とが必要であるが、大原幽學傳はその反省の一つの資料を提供し、農村生活の改良さるべき點につき示唆を與へるものである。

今から大凡百年前大原幽學の指導によつて千葉縣の長部に先祖株組合といふものが出來て、それが今日迄續いて居り、これが世界で最も古い歷史を持つてゐる產業組合だといふことは驚くべきことである。古い日本には社會的協同的な活動が甚だ少かつたと我々は思つて居つたが、その種が峽けて居つた譯ではなかつたのである。何故この立派な種を成長させ繁茂させることが出來なかつたかを我々は考へなければならない。勿論今は大いに事情が變つて來た。我々は幽學から學び且つそれを發展させることが出來るし、是非ともそれをしなければならない。幽學の徒が八石性理學敎會といふものを作つた。それへの入門式、元服式、結婚式などに今に學ぶべきものが多い。結婚式に際しての「夫より妻へ云ひ渡しのこと」「夫婦とも心得べきこと」等優れたる家庭生活の原理を與へてゐるものである。農村の指導者には必讀の書である。

野の英哲二宮尊德

菅原兵治著　昭和一七、二、一
偕成社　B6二三〇頁　一・六〇

著者は日本農士學校檢校、同じ著者によつて「村を護る」の文部省推薦圖書がある。二宮尊德翁が農村指導者として占める位置は既に搖ぎなきものであり、その敎養仕法は近來著しく流布せられつゝあるが、その大衆化は反面に於て淺薄化の傾向を否む譯にはいかぬ。

本書の著者は之を末法の世と觀じ、所謂宗敎改革の熱意に燃えて「祖師に歸れ」と叫ぶ。この意圖の下に第一章は二宮研究の態度に關し、第二章は翁の人物の肝要點について、第三章は翁の敎學

の骨子について、第四章は二宮教學を現下に傳習するに當つて用心すべき點を述べたもので、眞に温故知新の態度を以て臨んでゐる。現下益々高邁眞摯なる指導精神の要望せられる時、本書の如き指導者たるものの熟讀玩味すべきものと思ふ。

戰ふ國の生活

石井良一著　昭和一七、六、二五
六盟館　A5二四六頁　二・〇〇

本書は現在の第二次世界大戰下に於て、世界の代表的な諸國、即ちドイツ、イタリー、イギリス、アメリカ合衆國、ソ聯邦、フランス等の國々が戰爭といふ新事態のさ中で如何に身を處しつゝあるかを敍述したものである。

讀者は本書により、上述の國々の經濟事情及び經濟政策、勞働者の生活及び勞働政策、母子保護、多産奬勵等の人口政策、映畫、演劇、文學等の娯樂及び文化政策等についてその概略を把握する事が出來る。

本書は轉換期に立たされてゐるものは、我々日本人だけではないといふ意識を與へると共にその、樣な事態に如何に處していつたらよいかといふ方策を暗示するものとして、指導者の一讀に値する書物である。

日本名婦傳

吉川英治著　昭和一七、一、二〇
全國書房　B6三三三頁　一・八〇

文化の水準が高まると共に理智的なる女性も增加して來た。然しこの古今未曾有の大事業遂行に邁進してゐる現在の日本に於ては、むしろ聰明なる女性を要望してゐるのではあるまいか。今や日本の女性達は無暗に先へ走ることを止めて、我が國の上古の女性に學ぶ事を知らなければならないと思ふ。此の名婦傳は、古への歴史に名高き人の妻、又は其の母の傳記が著者特有の文章で、小說的にいとも興味深く書かれてゐる。之等の女性の如何なる點が秀れてゐるかを念頭において讀む時は必ずやその中から立派な日本婦道の精神が汲みとれる事と思ふ。

教育者としての母

兒玉九十著　昭和一四、二、一
主婦之友社　B6三四五頁　一・五〇

これは常識の書であり體驗の書である。優れた教育者である著者が一人でも多く御國のためにな

る人物を養ひたいといふ念願から日々の體驗と實例とを基にして誰にも解り易いやうに書かれた兒童教育の指針書である。

母は教育者としての自覺を持つて子の教育に當るべきであると著者は考へる。家庭教育に關する限りは母が主になるべきで、父が內助の功をなす側に廻るべきであるとする。夫は妻をこの點に於て信頼しなければならない。かゝる教育者としての母の爲にこの書は健全なる考へ方と豐富なる事例とを示し敎へるものといふことが出來るであらう。

主婦の敎養

淺香ゆき著　昭和一六、一一、二〇
八紘社　B6八五頁　〇・六〇

著者は佐渡相川町々長淺香實氏の母堂、今年七十六歳の老刀自である。そして長らく愛國、國防婦人會長をつとめた人である。

本書はよき妻、家事の處理、家庭經濟について、主婦と臺所、臺所は生活の研究所、全き敎育、時世を知る事、田舍の女性に學べ、たしなみといふこと、よき母、大きな愛、健康な子を、家庭敎育、母を尊べ、日本婦人としての、目次にもうかがはれる如く、家庭の主婦の敎養が一家一國の興隆に

如何に重要なものであり、主婦卽ち母親はどんな心構へでどうして修養しなければならないかを具體的に解り易く說いてゐる。

著者の人となりからも想像出來る樣に、机上の空論でも、才氣走つた理論でもなく、己の着實な長年の體驗をつつしみ深く反省しながら、眞の日本的女性の姿、心ばえを念じて筆が進められてゐる所に生命と價値が認められる。個人主義的家庭の主婦啓蒙の書である。

都會の婦人はかうなければならぬと反省するであらう。田舍の主婦はかうしやうと決意するであらう。これから家庭に入る若き女性は、日本の家庭の主婦の役割の大きく、使命の重い事を心の奥深く感じ、正しき心構へを整へることであらう。

これは外見、非常に貧弱な小冊子ではあるが、一般婦人の家庭敎育の指針として誠によきものの如く思惟せられる。家庭敎育の原論を解り易く述べた手引書といふ事も出來よう。

一般女性、特に餘暇少き家庭の母親達にすすめたい書である。

母心抄

村岡花子著　昭和一七、一〇、五
西村書店　B6三〇〇頁　一・八〇

本書は既に多くの讀者には馴じみの深い著者の第三隨筆集である。大東亞戰爭勃發して最初に迎へた新年より筆を起し、つゝましく戰爭の中を歩んでゆく主婦の心持を素直に書きつらねてゐる。內容が豐富な上に文章も流麗で、暖い母親の愛情と共に著者の敎養の香る書である。一般主婦向として廣く推したい。

母心

友松圓諦著　昭和一四、一〇、八
偕成社　B6三四五頁　一・五〇

母と言ふものが家庭で如何なる地位を占めてゐるか。母心は如何なるものであるかを具體的な例を擧げて語つてゐる。母は常に家にゐるものであり、子は母が家にゐるとそれで安心し滿足する。母が家にゐない場合、子は不安になり、つまらなくなり、不良にまでなる機會を與へる。母心は柔和である。母心は細心であり、子供の着物、食事、身體の狀況等實に細かく氣をくばり、記憶してゐる。母心は平凡であり、又無私である。慈愛深く、實際的で、何時も何かしら働いて居り、家の爲に身を捧げてゐる。この母心ありてこそ家が保たれ、子は育ち、國の基は堅いのである事を語つてゐる。

母の勝利

八波則吉著　昭和一七、九、五
英進社　B6二〇一頁　一・五〇

此の書は、「大東亞戰爭に於ける皇軍の强さは日本の母の强さであり、子の爲に總てのものを、時としては生命迄も捧げてひたすら子安かれと祈れる美しい母性愛と犧牲があればこそ子は母の懷にすく〳〵と育くまれ、やがてはそこから日本の偉人軍神も出づるのである」と說き、古へよりの所謂偉人賢人と稱へられる人の生立には、其の蔭にあつて或は强い諭しを、或は優しい暖かい導きを與へた母の力が如何に大きかつたかを、數多の實例を擧げて物語つてゐる。

母の願の凡ては子に掛つてゐる。子が强く正しく明るく育ち、國家のために立派な働きをする時こそ、母の願は滿たされ、母の勝利が與へられることを深く反省せしめるのである。

お母さんは

小住七五三　昭和一七、九、二〇
清水書房　B6一三八頁　〇・八〇

此の書は、家庭が國民心身育成の苗圃であり溫床であると言ふ所から、家庭敎育の重要性を、「お

母さんは」と題して語つてゐる。そしてさらに母は一家の中心的存在であつて、母により子は善くも惡しくもなる如く、その精神は子に對し强い影響を及ぼすが故に、母としての修養より育兒、母たるの心構へ竝びに生き方を、頗る懇切に簡明に述べて居る。而も本書は著者が子女教育の爲に母の使命を說いたもので、それだけに特定の家風の色彩が濃く、一般的には不適當でないかと思はれる點もなくはないが、近頃家憲や家訓の重要性が考へされてゐる際、その一つの良き例として讀まれるならば、參考となる點多いと考へられる。

若き母に贈る

伊福部敬子著　昭和一四、五、二五
敬材社　B6三三六頁　一・四〇

乳幼兒の敎育、心理、文化の諸問題に對して、友人の質問や、自分の子供を育てた經驗等より大切だと考へられる點を中心として、色々說明してゐる。それ故全體として系統的に統一されてゐないが、取扱はれてゐる個々の問題は人の親の誰もが一度は經驗し、そして夫々の程度に於て困難を感ずるもののみである。

而かも全篇に著者の子供に對する鋭い觀察と理解が見え、この理解に立つて獨特なる敎育法を考へて行く著者の創造的精神は全て母親の學ぶべきものであらう。

砂丘の蔭に

吉田喜久代著　昭和一五、九、一
長崎書店　B6四四七頁　二・〇〇

本書は農村に於ける初期の保健婦なる吉田氏の五ケ年にわたる開拓の道の尊き日誌を集錄したものであるが、姙產婦、乳幼兒の保護、一般保健指導のみならず、方面事業の一翼をも擔當し、その事業の實狀を、特に草創期に於ける諸種の困難と問題を傳へると共に、信仰と鄕土愛に燃ゆる信念一人の保健婦をめぐる信愛の情は、著者の謙虛なる心情からの表現を通して讀者をして感動せしめるものがあらう。

斯方面の事業の益々擴充せられることの要、急なる今日、その實狀と指導者たるの人の問題につき三思せしめるものとして推薦する。

若き女性の問題

三田谷啓著　昭和一七、一、一〇
同文館出版部　B6一六三頁　〇・五〇

本書は現代女性に適した女性訓である。書套を墨守せず、又若き心理におもねらず、よく大國民としての女性の新道を示して居る。現實を凝視し、卑屈な輕薄な態度を棄てゝ、强健な生活を建設せん事を力説してゐる。科學的態度、强き母性としての自覺を敎へ、大東亞の新時代に處すに實踐的な指導書である。本書は一貫せる論述でないので、家事の間の寸暇を利用して一節を讀んでも敎へられる事が多い。

著者は醫師であると共に長年母の會の指導をしてゐる、女性を最もよく理解した指導者であり、其の說く處は凡て空理に流れず、過激に走らず、現實生活を熟視してゐる特色をもつてゐる。

みかへりの塔

熊野隆治
豐島與志雄共著
昭和一四、一一、一二
B6 三三四頁一八〇

少年保護法による不良兒童の一敎護施設である大阪府立修德學院の院長が、同院に收容された少年少女達の成長過程や敎化過程や其の敎化方針等を記錄したものを豐島氏が編輯したものである。

こゝに收容されてゐる少年少女達は先天的にも不幸なる素質を受けついでゐる者が多い。しかしそれにも增して不幸な事は凡ての子供が不幸な家庭敎育を受けてゐる事である。兩親の愛を感ぜられぬ子や愛を知らない子が殆ど凡てゞある。之等の少年少女に寮母の愛を通じて愛を體驗せしめ、院內の規則的生活により人間らしい生活の躾を與へると共に、父母や肉親への愛情を種々なる方法で彼等の心に喚起する事を敎化の方法としてゐる。この本は家庭敎育の重要性を敎へ、又一度不良化した子供の心理や敎化の方法に多くの示唆を與へると共に院長や寮母の深い愛と强い犧牲的精神による强い敎育意志がよくうかがへる書である。

光に生きる娘たち

東福隆子著
昭和一七、七、二〇
時代社
B6 三〇〇頁 一・七〇

戰爭と不良化といふ事が各方面に於て問題とされてゐる秋、不幸多き家庭環境に依つて、くづれいちけ、脫線してゐる娘達を國家有用の材に迄敎化育成し、一國民としてはづかしくない娘、母となるような人間に育てあげたいと願はぬ者は一人としてゐないであらう。

本書は、これ等保護を必要とする娘達を家庭的な愛の雰圍氣內で少年法の法規と精神に基き、佛敎精神を奉じつゝ感化養育せん事を目的としてゐる荻窪六華園に於ける保護少女の敎化記錄である。著者はその主任夫人、夫妻の並々ならぬ十年間の體驗と搖がざる信念が、六華園の概觀、敎化の

生活の二篇を通して最後に集錄してある娘等の甦生記錄と共に興味深く示されてゐる。
聖戰下、人的資源確保要望の聲高き折から、世に子女を持つ親達に反省の書、教育の參考書として推薦したい。

次郎物語

下村湖人著　昭和一七、三、一
小山書店　B6三七〇頁　一・八〇

次郎物語は教育小說とも言はるべきものである。幼き子供の種々な環境が如何なる教育的意味を持つかといふことを具體的にはつきり示して呉れる。次郎のもつとも不幸な環境は母に愛されないといふことである。これが次郎に色々な變質的行動を行はせる。

次郎はこの不幸な運命に、盲目的な本能的な反抗を試みる。次郎を不良化することから、漸く救つてゐるものは乳母おはまの盲目的ではあるが、純粹な愛と、父の理性的な愛とである。母の病氣といふ不幸な事件に幸されて、母と次郎の不和は解消した、次郎はやつと母の愛を取戻し始めたとき、既に母の生命は終り、次郎はやはり愛の飢餓といふ不幸な運命の中に殘されてしまふのである。

續次郎物語

下村湖人著　昭和一七、八、五
小山書店　B6三四七頁　一・八〇

續次郎物語は次郎物語の發展である。然しこゝに於ける次郎は既に次郎物語に於ける次郎ではない。次郎物語の次郎は不幸な運命に本能的に反抗する魂である。即ち次郎は環境の生物であるが續次郎物語に於ける次郎は既に自覺的存在であり、環境を超越しこれを作る存在である。自覺的存在として自己の運命を理解する次郎には既に今迄の運命は新しい光の下に現れて來るのである。こゝでは先生、友達、祖父、繼母の父等の教育が著しく彼の人世觀を作り上げるのに力を持ち、教育の偉大さをつくづくと敎へる。自覺的存在としての次郎は自らの現狀を環境の責任とせずに自己の責任と考へる。そしてこの運命を自己の力によつて開拓せんと決心する。こゝでは次郎は運命に反抗するのではなく、運命を開拓するのである。この大きな魂の發展の歷史がよく畫かれてゐる。

この母この子

宮瀨睦夫著　昭和一六、一二、二四
第一公論社　B6二三九頁　一・五〇

明治時代より今日迄の間に、この世に貢献をなしたる人々の生ひ立ちと業蹟、母なる人の薫陶が極く眞面目に書かれてある。實業方面、政治方面、或は教育、宗教等と其分野こそ違へ、その底を流れる一貫した精神は何れも同じであつて、これを煎じつめれば忠孝の二字に歸してしまふ。此所に於いて我が國の偉人は何れも忠孝を實踐躬行して來た人達である事が分る。之外國の偉人と日本の偉人の異る點ではあるまいか。又一方母なる人が凡て敬神崇祖の念に富んでゐたといふ事を併せて考へる時、我が國の家庭教育の眞髓が那邊にあるかを親ひ知る事が出來る。

幸福なる生活

本田靜六著　昭和一六、一〇、四
主婦之友社　B6二九一頁　一・六〇

嘗て東京帝大の林學の教授であり、目下帝國森林會長として戰時下山林の增殖に全力を盡して居られる著者の無駄のない生活が實際の體驗を通じて書かれてある。吾々銃後にあるものが極力無駄を省いて貯蓄をなす事は國に報ゆる一つの道である事を戰時經濟の方面から解り易く說いてある。それが爲には氏自身が長い年月に亘つて實行されて來た、收入の四分の一天引貯金を以て其貯蓄方法を示されてあるので、單に概念のみに止まらずして、之が實行に迄導びき入れんとする力がこもつてゐる。生活の改革の必然的に求められてゐる今日に於ては是非必讀すべき本である。

茶味

奥田正造著　昭和一六、一一、三改版
光成館　A6一三七頁　一・〇〇

著者は成溪女學校の校長である。この學校は派手な存在としては知られてゐず、獨特な教育主義の下に眞摯な努力を續けてゐるものである。

本書は著者が學校の茶室不言庵にてその教へ子に傳へた響を更に廣く一般人士に傳へる爲に書かれたもので、初版は大正九年に出てゐるから既に二十五の星霜を閲したものである。著者は言ふ、「謙虛な生活、思邪なき奉公、これにふさはしい心身を錬ることを茶に依つた自分には、二十餘年前に書いたものではあるが改めたいとは思はぬ。且つ一生に一冊だけ書けばよいと思うたことも事實である」と。以て本書の內容が時の試錬に耐えた優れたまことのこもつたものであることを親ふことが出來る。日本婦人に茶道のこゝろを知らせる代表的な著作として推すものである。

萬葉秀歌（上下二卷）

齋藤茂吉著　上卷　昭和一三、一二、一〇　二五九頁　〇・五〇
岩波書店　下卷　昭和一三、一二、一〇　二三四頁　〇・五〇

本書は萬葉集の短歌中、國民全般が是非知つて置かねばならない歌で且秀れたものを選出し、簡單な註釋を加へてある。

内容は歌が主で註釋が從となつて居り、文法的な一句々々を精細に説明して居るから、所謂萬葉の精神、萬葉の日本的なもの等を汲み取る上には不適當であるが、一首々々を取り出してその中にこもる萬葉の心を深く味はふことが出來る。著者が萬人向きと言ふ意圖の下に選出したものであるから、忙しい仕事の間に、食後に、寸暇を割いて萬葉集を讀まんと望まれる婦人の爲に、簡略で併も内容豊富な「萬葉集入門」の書として、推薦したい。

萬葉集物語

森岡美子著　昭和一六、一二、二〇
金蘭社　B6四一〇頁　一・九〇

萬葉集中の短歌を主として擧げ、歌を中心として物語風に解釋してゐる。祖先の聲を通じて萬葉時代人の持つ忠君愛國の精神、並びに風俗精神生活狀態に現はれた萬葉人の感情を現代の兒童に理解させる爲に努力して居る。之は兒童向に書かれたものであるから幾分物語風に流れてゐるが歌を讀んだ時の心境、光景をよく表はしてをり、文も亦平易であるから、萬葉集の如何なるものであるかを知り得、歌を通じて、卒直雄大な歌風、所朴眞實を有する萬葉精神を掴み、萬葉時代を通じて戰時下に於ける女性の強い國民意を目覺させるに好適の書として推薦する。

父母恩重經講話

高神覺昇著　昭和一六、一二、二二
大日本雄辯會講談社　B6一六七頁　一・〇〇

本書は、支那より傳來の佛説「父母恩重經」をラヂオ或ひは婦人雜誌で講話したものを一本にまとめたものであり、叱り手としての慈父、抱き手としての悲母の親ごゝろ、その父母の恩の偉大さ感恩のこゝろを説き、親につかへる道を敎へてくれてゐる。

「親の心子知らず」の諺の示す如く、人は兎角親に馴れ過ぎて、父母の苦しみ、父母の恩を忽かにしがちである。輕い氣持で語つてゐる處から、講話には物足りない、統一を缺く嫌ひはあるが、一度此の書を手にする者は、改めて父母の恩の尊さを反省せずにはゐられないであらう。就中、附錄の父母恩重經は名文、折ある毎にとり出して讀む價値あるものと信ずる。子をもつ親、子女共々に與へて一讀を薦めたきものである。

人生讀本

岡本かの子著　昭和一七、八、二〇
大東出版社　B6二五八頁　一・八〇

佛信に篤かつた著者が、二十年近くも心に感じ身に行つた經驗をふりかへり、又批判して見たことを僞りなく書き集めたといふ本書は、七十三課に渉つて人生の凡ゆる相を網羅しつゝ、讀む人に「人生解決」の鍵を與へてゐる。序文に於て著者が、「私といふ一人の人間が眞に感じたり思つたりしたことは、同じ人間である世のみな樣に語つて眞實同感して頂けることゝ信じます」と確信してゐる如く、佛敎の信仰を通し、巧みな例をとり擧げ、興味深く語る著者の言葉には、眞實胸に應へる味はひ深きもののある事を見出すであらう。

多事多難な朝夕を迎へて雄々しく生き拔かんとする女性達には一つの處世訓とも云ふべく、折に觸れ讀むのに好適の書として推薦する。

日本女性美史

岡成志著　昭和一七、九、二〇
佃書房　B6三二七頁　一・七〇

著者は獨逸文學を專攻した人であり、又從來ユーモア作家としても知られてゐた人であるが、本書はその敎養の豊かさを示したものである。

日本女性美史とは日本女性史であるが、著者はこの書で日本男性の一人として親愛なる日本女性の眞の美しさを語らうとするものだと言つてゐる。

かくて物語は伊弉諾尊、伊弉冉尊から始まるがどれもやさしく面白く、而も識者をもうなづかせるやうに語られてゐる。例へば第二話木花開耶姫をとつて見るがよい。著者はそこに美はしく、明朗で禮儀正しく、純潔であり、優雅のうちにも凛々しい姫を眼前に見るが如くに描いてゐる。物語は長い歷史の各時代を經て、明治、大正、昭和に至り、最後には明日の女性のあるべき姿にまでも及んでゐる。婦人の爲の敎養の書として大方に推したい。

花ある職場へ

奥むめお著　昭和一六、八、五
文明社　B6二三八頁　一・三〇

働く婦人の姉として母として二十年の間を色々と語り、色々と手を盡して來た著者が、働く婦人達の現在の生活設計、將來の生活展望等に就いて、生活の凡ゆる方面に亘つて、こまごまと、そし

て心からの溫かさを以て語つてゐる文集である。有職婦人に溫い心情を傳へ、而も一面建設的な生活設計を敎へ、なほ併せてこれを通して社會一般に有職婦人の問題への關心を喚起しやうとする三重の意義が認められる。女性らしい柔さのにじみ出たよき生活指導書として、有職婦人及びその指導者にすゝめたい書である。

新訂 榮養讀本

鈴木梅太郎 井上泉雄 著　昭和一六、七、二〇
日本評論社　A5三〇六頁　一・五〇

この書は榮養編と食品編の二編に分たれ、榮養に關する全般的知識を與へるものである。榮養編に於ては、先づ榮養の概念より說き起して、成育現象、體溫運動力の發生、骨格の生成、ビタミン、ホルモン、消化、榮養の吸收等の說明より保健食糧を說明し、食物選擇の心得に就いて述べてある。食品編に於ては、食物、食品、嗜好品の各々に就いて、その榮養學的意義、取扱法、合理的組成法に就いて說明してある。附錄として、食物養分含量表、食物灰分含量表、食物のビタミン含有量、食物アルカリ度表等が添へられてある。榮養に就いての基礎的及び實踐的知識を平易な敍述に依つて與へ剩す所がない。都市、農村全般の指導者向き及び都市一般主婦向きとして推薦する。

母と子の榮養學

大森憲太著　昭和一七、六、一〇
婦人之友社　B6三四四頁　一・三〇

目下健民運動程、銃後の母親にとつて重大な務めはない。若し直接子供の健康をあづかる母親に榮養學の基礎知識が確保されてゐるならば、如何に時局が必迫しやうとも、落着いて科學的に次代の國民の健康增進をはかることが出來るであらう。斯界の權威者である著者が兎角無味乾燥になりやすいこの問題を「人はパンばかりでは生きてゆけない」といふやうな見出しから入り、問答式に極めて興味深く、「人體の成分と食物の成分」「榮養素の機能」「人は一日どれだけ食べたらよいか」「何を食べたらよいか」等を解說し、「自然に還れ」「長壽萬歲を希ふ人へ」に至つては、昨今玄米食の必要が漸く唱へられる折柄その根據を成程と頷かせる。

後篇榮養十二ヶ月は、地方生活者、都會生活者、又特に子供の獻立指導である。

決戰體制下にある吾々は今日より明日と漸次食物の窮屈になることを覺悟してはゐるが、その中で健康を增進させる爲にやゝもすれば見失ひ勝ちな標準を示してくれるものである。勿論材料その他現在としては工夫と改良とを要する點は多いが、據り所を明示されてゐることは實に心强い感を

與へる。世の母親達はこの書によつて大いに勵まされ、雄々しく健民運動に參加したいものである。

僕らの榮養と食物

川島四郎著　昭和一五、九、一
誠文堂新光社　B6三一八頁　二・〇〇

この書は題名の示すやうに兒童の爲に書かれたものであつて解り易く然も、その內容は非常に豊富である。著者は陸軍主計大佐で、兵隊の食物のことをよく研究し最近農學博士となつた人である。序文に當る「ドイツの選手が最も數多く優勝したことに就いて「各國とも選手は二十五六歳前後でいづれもこの前の世界大戰の頃に生れた子供たちなのですが、戰勝國側の國々では勝利の喜びに醉つて第二の國民である子供達の榮養にうかつであつたのに、戰敗國のドイツは齒を食ひしばつてあの食物の不足の中から子供達の榮養のことに非常な努力をはらひ子供達を立派な青年に育てあげたことを言つてゐる。

兵隊の食物の研究者であるから非常に實際的で、あらゆる食物に亘つて面白く且つ實質的に取扱つてある。殊に食物不足の場合のことも考慮してあるのが喜ばしい。

農村榮養共同炊事の手引

森川規矩
增田正直共著　昭和一四、九、一五
佐藤新興生活館　B6二七九頁　一・〇〇

農村に於ける生活指導の目標が、生活の協同化に重點が置かれ、且つ農村生活改善の重點の一つが食生活の向上にあることはいふまでもないことであつて、本書は之が指導に當つての手引として好箇のものであることは既に定評のあるところである。

教育紙芝居講座（全一卷）

松永健哉著　昭和一六、一、二五
元宇館　B6二一七頁　一・三〇

聖戰下我國國民大衆を一定の方向へ指導敎化して行くことは指導者に課せられた重要な課題である。この課題遂行のための敎化手段としては種々のものがあり得るが紙芝居もその一つである。然もこれは他の種々なる敎化手段と比較して優越した特性を具へてゐる。卽ち紙芝居の働きかけ得る對象としては文學に親しみのない大衆をも包含し得る點で、新聞雜誌に優るものであり、その視覺的であり迫力のある點でラヂオに優るものである。然も之は製作實演共に容易であり、且それに要

する費用は映畫演劇に比して比較にならぬ程低廉なものである。從つていかなる僻村にても利用し得る敎化手段なのである。この利用價値の高い紙芝居にいち早く眼をつけ、十數年來これが普及に努力して來たのがこの書の著者である。この書により讀者は紙芝居の理論、製作、演技を體系的に領解することが出來る。農山漁村、都市の指導者の一讀してよい書物である。

これからの國民娯樂

渡邊登喜雄著　昭和一七、七、一五
南方書院　B6二〇七頁　一・四〇

娯樂が國民の生活力昂揚に必要な一つの方法である事は、今日娯樂が國民娯樂として考察される樣になつた事に認められる。然し從來各地域に即した娯樂の具體的施設方法に就いて多少なりとも綜合的に扱つたものは殆んど見當らなかつた。この書は著者の實際經驗に即し、農村を中心とし、都市及び工場の娯樂に就いて、具體的にその建設面を取扱つたものであり、祭祀、万歳、盆踊、農村劇、音樂、映畫、假面劇、移動演劇、讀書、人形劇、影劇、茶道、工場娯樂等に就いて述べてある。特に農村指導者には必讀の書である。

國民娯樂の問題

權田保之助著　昭和一六、七、一五
栗田書店　B6三〇八頁　二・四〇

從來娯樂の問題はとかく閑却され勝ちであつた。娯樂を國民娯樂として考察してゐるこの書は、この方面に於ける唯一の推薦すべき書である。內容は著者が諸雜誌に發表して來た論文を蒐錄したものである。從つて多少論旨の重なり合ひがあるが、時局下に於ける娯樂の位置、娯樂政策の根據と要請、國民娯樂の提唱等に就いて說き、國民娯樂的政策の方向として工場生活者、農村、青少年學生の娯樂、市民娯樂等に就いて述べ、最後の娯樂擔當者としての映畫人の問題に論及してゐる。國民の生活力昂揚の方法としての國民娯樂に就いての根本的問題は一應提示され盡してゐる。唯娯樂の具體的な問題に就いての敍述が少いのは殘念であるが、指導者向きとして推薦する。

村の人形芝居

松葉重庸著　昭和一七、一二、一
增進堂　A5一八五頁　一・三〇

農村に健全な娯樂を與へることの必要なことは、改めて說くまでもないが、それでは如何なるも

のが適當であるかといふことになると俄かには決定し難い。「作り方も使ひ方もやさしくて、だれにも出來るゆび人形」は確かに「明るい世界をつくり出して行くため」の好箇なものと言へよう。

本書は女學生の農繁期保育所への勤勞奉仕、國民學校兒童の人形劇團の成立と活躍等の物語風の筋を追ひながら、人形の製作法、演出法、脚本の書き方等が極めて親切に織込まれ、特に人形劇が演ぜられるまでの仕事の分擔、各分擔者の心得等が協力の精神を基調として說かれてゐるのが特色をなしてゐる。

從つて本書は少國民向に書かれてゐるが、指導者殊に國民學校職員、青少年團幹部、保育所指導者等の人々に參考となる點が多い。

精神衞生講話

下田光造著　昭和一七、一〇、一五
岩波書店　B6四一〇頁　二・八〇

本書は異常兒論、神經衰弱、ヒステリー、不眠症、頭痛、健忘、精神病の七講から成り一々の病氣の原因、症狀等を詳細に平易に述べてあり、その治療法にも及んでゐる。

世間には衞生學書は多く出版されてゐるが、肉體の衞生のみを說いたものがその大部分を占め、精神衞生に就いて書かれたものはあるかなきかである。然るに精神病者、變質者其の他の精神疾患の少からざる現狀に於ては精神衞生學の必要は論を俟たない處である。

而して精神病に於ては疾病の早期發見と早期治療が最も大切であると言はれる故に、精神衞生の知識の一般的普及を計る事が從つて重大と云はねばならぬ。特に本書は精神病は不治であるといふ迷信の打破に努力してゐるばかりでなく、精神衞生に注意する事により積極的に健康な精神を作り能率を擧げる所以を說明してゐる。

結婚と人口

岡崎文規著　昭和一七、二、一〇
千倉書房　A5二四二頁　二・三〇

政府に於て決定した「結婚の促進」と「結婚年齡の引下げ」を人口增加の見地から論述したものである。結婚といふ現象を社會現象として統計學的に觀察し處理して、而も品位の高い香りを持ち特に經濟との聯關を明白に指摘し、結婚對策の上乘の道案內として讀者を啓發せしめるところが多い徒らに結婚奬勵のみ叫ばれても、その基礎條件である青年男女の社會的立場に對する冷靜透徹した思慮を缺いてゐては何の價値もない言葉に過ぎないが、本書はこれらの點に就き充分な科學的配

慮を行つてゐる。結婚適齢期の男女多數を擁する官廳、會社、工場等の指導的立場にある方々の一讀を薦めたい。

日本人口問題

岡崎文規著　昭和一六、八、二〇
目黒書店　B6一五六頁　〇・五〇

人口政策が現下喫緊の國策であること、及びその遂行には結局する處、國民の理解と協力卽國家觀念の昂揚並びに母性の覺醒に待つところ極めて大なることが、家庭教育文庫中に人口問題の解說書を加ふる必要の存する所である。

著者は人口問題研究所調査部長經濟學博士。

本書は、第一、我國に於ける人口問題の沿革、第二「人口政策確立要綱」の目標、第三「わが國の將來人口」、第四「人口政策確立要綱」の人口增强策、第五「出生增加策に對する反對說」、第六「ナチスの人口政策」、第七「人口問題上の大都市」、第八「婚姻と出生」、第九「乳幼兒死亡と結核死亡」、第十「わが國の人口政策的施設」の各章より成り、我國人口問題の所在と之に對する方策の大要を知る事が出來る。

病氣の正體（ラヂオ新書32）

緒方富雄著　昭和一六、一一、一〇
日本放送出版協會　A6一五五頁　〇・五〇

本書は病理學、血淸學を專攻する基礎醫學者である著者がラヂオ對談で放送した講話をまとめたものである。具體的な例を擧げつゝ、而も平易な文章で病氣とはどんなものであるかといふ問題から始り、近代醫學の概念とその精神を述べ、日本の科學及び醫學について檢討してゐる。病氣の豫防及手當に關する醫學書は多々あるが個々の病氣が如何なる生理的狀態であるかといふ事を說いてある本は稀である。勿論一々の病氣に就いて知つてゐる事は不可能であるとしても、「病氣の要領」といふ樣な事を心得てゐる事は必要に應じて夫々の病氣を了解する時に大いに役立つ。病氣の性質、原因、經過を知り拔く事が出來ればその手當の方針も立つと同時に豫防の方針を立てる事が出來る。

心身共に健全な皇國民の育成が要望されてゐる折から病氣並びに近代醫學に對する認識と理解を深めそれを「身についた知識」として役立てる樣一般家庭婦人及指導者向に推薦する。

學童と結核

原島進共著　昭和一七、五、一〇
志佐博共著
目黒書店　B6二九八頁　三・二〇

これまで結核に關する著書は數多く、中でも一般に讀まれてゐるのは主に療養の本であつた。ところが著者の樣に「結核豫防のうへから考へて學童期は、感染豫防と初感染の完全治癒に重點が置かれねばならぬ時期である」といふ確信のもとに多年の研究と實際とが纒められた豫防の書は餘り見られない。

全文が終始一貫して敎育的愛によつて導かれ、都會のみならず農村に於ける學校を中心としての實際的方法、結果、指導、豫防等が如實に敍述されて居り、讀者をして一々頷かせ、不知不識のうちに、結核に關する正しい認識が得られ、これまでの單なる怖れとか不安は一掃され、明るい希望を抱かせられるのである。末尾に養護施設一覽も出てをり、まことに至れり盡せりの編纂である。學校の職員、父兄の書として推薦いたしたい。

職業婦人の醫學

佐藤美實著　昭和一七、一、一〇
萬里閣　B6二七二頁　一・八〇

本書は、著者が多年婦人勞働問題を研究された多くの業績を纒められたもので、內容を紹介すると、女子職業疾患の原因、職業婦人の罹病並に死亡、女子職業と產兒並に乳兒、女性職業疾患の豫防、職業婦人保健對策、結語等から成り立つてゐる。

戰時下の我國が女性の勞働力を必要とすることは、日を逐ふて增加の一途にある。女性の天職である母性としての生理衞生豫防を實際の問題を提示しつゝ敍述し、女性が自己の健康と生命を護つて、人口增加と國力の增强を祈念しなければならぬ點を强調してゐる。本書は飽くまでも母性の保護を眞劍に考へ女性に訴へるところが多いので、職業婦人の自警の書としては勿論、指導者側としての雇主、管理者、爲政家等の參考となる點が非常に大きい。

母の愛育全集（五卷）

第一卷　乳兒の卷　昭和一六、四、三〇　三八六頁
第二卷　幼兒の卷　昭和一六、六、一五　三八八頁
第三卷　兒童の巻（上）　昭和一六、七、三一　三七六頁
第四卷　兒童の巻（下）　昭和一六、八、三〇　三七八頁
第五卷　少年少女の巻　昭和一六、九、三〇　三八二頁
主婦之友社　B6各册　一・五〇

この全集は母として我が子の愛育に必要な知識、態度、考へ方を、姙娠中の注意より始めて、乳

兒、幼兒、兒童、少年少女の各時期に亘つてそれぞれの方面の專門家が、保健衛生の方面と心理、教育の方面との兩方面から主要な問題に就いて網羅的に、而も極めて平易に說いたものである。一般母親の指導書として好適である。

愛育のこゝろ

恩賜財團愛育會編　昭和一五、二、一〇
三省堂　B6二九四頁　一・〇〇

子供は家庭の寶であることは申すまでもない。で我子を心身共に健全に育てあげることは世の親たるものの務めである。所で親といふものは我子に對し限りない愛を持ちながらそれはとかく盲目的なものに陷り易い。それといふのも一般に、育兒思想に缺けるがためである。本書はこの缺陷を補ふものとして著はされたもので、健全なる育兒指針を示し、廣く育兒思想の啓蒙普及に資せんとするものである。本書の對象とせるものは、乳兒及學齡前迄の幼兒で、これが心身の發育過程、異常、養護等々に汎つて育兒知識を網羅してゐる。

現在子女をもてるもの、將來母性たるものは勿論、廣く育兒の職務に從事してゐる保健婦、保姆の座右に備へて然るべき書物である。

父親と育兒（生活科學新書）

齋藤文雄著　昭和一七、六、二〇
羽田書店　B6一八八頁　一・四〇

從來育兒のことと云へば專ら母親乃至女性の問題と考へられてゐたが、國民力の增强の極めて緊要なる今日に於ては、單に女性に限らず父親も亦國の子の親として、その育成に協力しなければならない。この點に着目して書かれたものが本書である。それ故に本書の內容は育兒の國家的意義を說いた後に、乳幼兒の發育、生理、榮養、疾病、養護、環境衛生等に涉り、その原理と實際とを平明簡潔に、しかも平俗に墜せず豊かな文藻を以て敍述せられてをり、敎養人の常識として必須の水準を示してゐる。

卽ち本書は所謂通俗育兒參考書ではなく、育兒敎養の書である。育兒の態度、考へ方を敎へる書である。

從つて本書は父親の爲に書かれたものであるけれども、多くの母親に讀まれることも勿論望ましく、一般指導者向には好適なものである。

幼兒心理學

山下俊郎著　昭和一三、七、五
巖松堂　B6四〇三頁　二・五〇

新生兒より國民學校入學迄の乳幼兒の感覺、運動能力の發達、空間、時間、數の觀念、記憶と注意、創作、情緒生活、好奇心と興味、社會性、遊び、習慣、道德的發達等、乳幼兒の心理の全般的問題に及んでゐる。乳幼時の心理の各方面の發達狀態が明かにされてゐる許りではなく、何時も母や保姆の子供に對する愛育の精神より說かれ、其れ等の心理を伸ばし、育て、或は豫防し、矯正する等のそれ〴〵の實踐的な取扱ひ方が示されてゐる。

これだけの豐富な充實した內容が、女學校卒業程度の母親に讀みこなせる樣に書かれてゐる事は著者の獨特な手腕と言はねばならない。

少國民の心理と文化

關計夫著　昭和一七、八、二〇
巖松堂書店　A5四〇一頁　三・八〇

この書は國民學校兒童の心理を說く事に中心を置き、併せて少國民文化の問題を取扱つたものである。第一部序論に引つゞき、第二部少國民の心理に於て、國民學校の兒童觀及び國民學校前期としての幼兒の心理を述べ、次に中心問題たる國民學校兒童の心理に就いて說いてある。第三部は少國民の文化を取扱ひ、兒童文學、兒童劇、兒童映畫、紙芝居等に就いて述べてある。所論の中引用の實例が極めて具體的且つ豐富であり、國民學校兒童の實際に卽して、極めて分り易く說かれてある。國民學校兒童の心理を理解し、傍々少國民文化の問題に關心を呼び起さしめるに好適の書である。

青年の心理

牛島義友著　昭和一五、七、一七
巖松堂書店　A5二八一頁　二・八〇

この書は青年の心理に關する著者及び他の諸學者の研究をまとめたものである。第一篇序論を經て、第二篇に於て自我意識の發達、第三篇に於て社會意識の發達、この二つの方法から青年心理が描き出されてゐる。自我意識の發達に於てはその發生としての反抗、その昂揚としての感情、その分化としての理念——スポーツ、藝術、道德、宗敎——、その社會化としての職業に對する態度に就いて述べてある。社會意識の發達に於ては、その再出發としての孤獨、その深化としてのエロス

その擴大としての政治的關心、青年運動に就いて說いてある。青年の心理を誤りなく摑み、その指導を誤らない爲の資料として、指導者向きに推薦する。

育ての心

倉橋惣三著　昭和一一、一二、五
刀江書院　B6三〇二頁　一・五〇

この書は著者が子供達と母達とに接しながら書かれた母と子に就いての實感の書である。隨筆を集めた「子供達の中にゐて」、子供を描いた泰西名畫を中心とする「名畫の子供」、色々の母の姿態を述べた「母ものがたり」、また「子供の癖くらべ」、「いろ〳〵の子供」「子供の心」、「子供の相手」等の諸章があり、いづれも子供及び母に對する著者の美しい心持ちが生々しく描き出されてゐる。子供に對する氣持を養ひ高める糧として一般向きに推薦する。

幼兒の心理と教育

三木安正著　昭和一七、二、二五
厚德書院　B6一五〇頁　一・三〇

本書は幼兒の心理と教育に關する一般向き概說書として適當である。大別して二部に分れる。第一部は幼兒の精神發達を概觀し、これを意識の擴がり、自我の成長、社會性の發達の三點より述べてゐる。第二部に於ては幼兒教育の目標を健康、知能、性質の三方面に於て定め、具體的問題として、家庭教育に於ける母と子の間柄、躾、賞罰、家庭と社會等の問題を述べ、次に幼稚園の教育に就いてその任務、是非、その實際、母親の協力等に就いて說いてある。都市一般向きとして推薦する。

幼兒の生活と教育

婦人之友社篇　昭和一四、三、一五
婦人之友社　A5二二一頁　〇・八〇

此の書は婦人の友を中心とした友の會の婦人達の共同研究の結果によつて行はれた、幼兒生活展覽會に展覽せられた幼兒教育に關する資料を蒐錄したものである。乳兒から學齡に達する迄の乳幼兒の生活の調査から出發して、榮養、健康、衣服、玩具、生活教育に關する共同研究の結論が、具體的な取扱ひ方と共に、色々な實際的經驗を織り交へ述べて居る。具體的な個々の點に就いて多少の殘された問題があるが、幼兒教育の基礎を生活に置いて、それを研究的に組織し樣とする眞劍な態度に學ぶべき所が多い。指導者向きとして推薦する。

家庭に於ける子供の鍛錬

青木誠四郎著　昭和一七、七、一一
主婦之友社　B6三六六頁　一・五〇

親の愛情は限りなく深いが、正しい知識に裏付けられないと甘さに流れ、厳しさに偏つて問題の子供を作つてゆく。その過程を實例を示しながらはつきりと示してゐる。國民學校の教育目標を示して育ての心の向ふところを明かにし、本當の親の愛情のあるべき姿を教へると共に、最近の教育の中心問題である意志鍛錬、生活訓練、科學教育等の指導方法を説述し、家庭に於ける學習指導の實際にまで及んでゐる。

國民學校を卒業した母親にも理解される事を望んで非常に平易に、具體的に詳説され、又繰返し〳〵累述されてゐる。

母親はこの書物を讀む事により教育者としての過去の姿をあれこれと反省させられ、新しい國の要求する子供の育ての責任者としての自覚と方法とが教へられる。國民學校卒業程度の一般の母親に推薦したい。

子に學ぶ母の記

飛田しげ子著　昭和一六、五、二二
主婦之友社　B6三四七頁　一・五〇

この書は三人の子供の母たる著者が、長男の學齢に達するまで、次男の四歳に達するまでを書き綴つた育兒記錄である。滿一歳迄と二歳、三歳といふ樣に、一年毎に記錄を敍述し、各章の終りに各年齢一ヶ月毎に發育經過の記錄が一つの表としてまとめられて居り、また附錄として、學齢迄に子供のした事として文字、數の習得過程、觀察、繪、手技、お話、歌、繪本、遊具等の敍述と、子供の爲に兩親が工夫した色々の設備が述べられてゐる。育兒上の色々の失敗もそのまゝ述べられ、長男と次男とを對照しつゝ述べてある所に教へられる所が少くない。母親の實際の育兒記錄として母親の共感を呼びつゝ、兒童心理、保健衞生の書物と對照して讀むとき、家庭教育上のよき參考資料である。都市一般向きとして推薦する。

愛兒の教育相談

田中寛一編　昭和一四、二、一〇
培風館　B6二八二頁　一・五〇

この書は教育相談に現はれて來る主な問題を集めて、各問題を類型的に一般的な解說を與へ、次に實例を擧げて、その取扱法、教育法、等に就いて述べたものである。問題としては、學業成績不良兒の問題、優秀兒の教育問題、幼兒教育の問題、青年期の教育問題、不良兒の問題、身體的缺陷兒の問題、身體虛弱兒の教育問題、神經質の子供の問題、子供の社會性の問題、ひとり子の問題、性格教育の問題の十二類型が取り上げられてゐる。これ等は實際教育相談に於て屢々提示せられる問題であつて、從つて家庭教育に於て屢々兩親を惱ます所の問題である。これ等の極めて起り易い問題に對する考へ方と解決法に就いてこの書は教へる所が多い。一般及び指導者向きとして推薦する。

愛兒の爲の科學教育の躾け方

栗山　重著　昭和一七、一、一〇
研究社　A5二三八頁　一・五〇

この書は國民學校理科教育の立場から、一般家庭の母親の爲に科學教育の具體的方法を說いたものである。著者の說く所の根本は、科學教育は知識の詰め込みではなくして、實事實物より經驗を通して學ばしめるべきものであり、從つてそれは一つの躾けの教育であると言ふ點にある。科學教育の根底は凡てに自ら考へ、自ら工夫し、自ら事を處理して行くと言ふ生活態度の躾けにあるのであつて、この意味に於て科學教育の躾の第一段は家庭の母親がこれを司るべきものであり、又就學前の幼兒教育に迄遡らなければならない。この樣な科學教育の態度を教へるものとして指導者及び都市の一般母親向きに推薦する。

幼兒の科學教育と其の指導

小池喜代藏著　昭和一七、九、三〇
育嬰協會　B6一六五頁　一・三〇

從來科學教育とは自然科學的知識を與へることであると考へられた。これに對して著者は科學教育とは合理、創造の精神を養ふ事であると考へる。そしてこの合理、創造の精神を以つて生活すること、即ち生活の科學化を以つて科學教育の根本と考へる。この立場から著者は科學教育の基礎としての生活指導を考へる。生活指導の中に於て合理的態度、創造的態度、科學的考へ方、科學的處理等を如何に含め教へて行くかを具體的に示し、特に科學的態度の一つである觀察と表現の指導には幼兒の記憶畫を利用して指導する。一人の子供に對する具體的、實際的指導、その指導に從つた子供の繪及子供の母の日記が記載され、讀者に一々の指導の跡が充分理解される。從つてこの本は

幼兒の科學教育の指導書として適當であるのみならず、幼兒の描く繪の指導書としても適當である。

子供の描く繪の導き方

古家　新著　昭和一七、三、二八
湯川弘文社　B6二五六頁　一・八〇

指導篇に於て子供の繪を思想畫と寫生畫に區別し、その各々の意味を述べ、畫の問題にも及んでゐる。

基礎篇に於ては一般に描畫の基礎となる形と明暗、色彩、構圖を概說し、材料と技巧篇ではクレオン、クレパス、水彩、油繪觀の材料とその性質、使用法等を述べ、題材篇では靜物、風景、人物等對象に應じた描き方を說明し、尙終りの二章に於て鑑賞、圖案にまで及んでゐる。一般に描畫の基礎概念が極く平易に解說されてゐるので、母親は之により一般的に繪畫に對する理解と興味を深め、從つて子供の繪の指導のよき參考書となるのみでなく、母と子と共に繪を描かうといふ意慾をすら起させ共に描き共に學ぶ境地に迄導くであらう。

音感教育への理解

酒田富治著　昭和一七、一一、一
刀江書院　B6一〇二頁　〇・六五

本書は四篇からなり、第一篇に於ては、音感の意義、音感の種類、絶對音感を基調とする音感教育の仕組をのべ、第二篇に於ては、音感教育の沿革、國民學校藝能科音樂へ、音感教育の取り入れられた事情を、第三篇にては、藝能科音樂の方法として、樂譜指導、リズム感訓練、和音感訓練を第四篇にては、國民學校での音感教育に對して家庭は如何に協力したらよいかを、夫々述べてゐる。著者は音感教育が未だ世間から問題とせられなかつた以前から、音感教育の理論的並びに實際的に盡力してこられた人である故に內容は充分信賴する事が出來、而も敍述は、この種の書物としては簡潔、平明であり、常に母親を念頭に置いて親切に書かれてゐる。音感教育を知らんとする母親への手引書として好適であらう。

日本の家庭教育

岡村匡造著　昭和一五、一〇、二〇
新小說社　B6三六七頁　一・六〇

著者は醫を本業とする傍ら、衛生組合、產業組合、青年團、方面委員、教護委員、司法保護委員等の社會事業に關與すると共に學校醫として教育に深い關心を有してゐる士である。本書は上篇日本獨特の家庭教育。中篇親の心得べき事項。下篇家庭教育の實際の三篇より成り、日本の家庭教育の

あるべき姿。この家庭教育を振興充實せしむるために、親の心懸くべき躾の問題、身體の問題、亦健全な家風を建設するために、父親、母親の注意すべき日常行動——修養の如何に重要であるかといふ事。續いて國民教育の實際的道場としての家庭で實行すべき、重大行事の家庭化。神祇の尊崇國土愛の教養。和心の充實。明淨潔白等について、我が國、家庭教育の特質として益々發揚せしめなければならぬ事項を解り易く感銘深く教へてゐる。尙兄弟喧嘩、間食、學校家庭の連絡、賞罰、入試等、躾け上難儀と考へられてゐる　問題をも取り上げ、之に正しき解答と注意を與へてゐる。又氣苦勞な問題として、强情、虚言、癇癪、短氣、呑氣、嫉妬等の心理學的教育學的諸問題への解明はこの書の用意周到さを示してゐる處である。

又事變と家庭教育と題する遺兒の教育、未亡人の爲に書かれたものは時局下適切なるものと云ふ事が出來る。

一般家庭の父親、母親は勿論のこと、家庭教育指導者にすゝめたきものである。

國民學校と家庭教育

阪本一郎著　昭和一六、四、一三
第一公論社　B6三七二頁　一・六〇

學校教育と家庭教育とは異つた場に於て行はれる教育であるが、その皇國民を作り上げる點に於て向ふところは一つでなければならない。小學校が國民學校となつたのは如何なる意味であるか、國民學校はどんな使命を負ふて誕生したものであるのか、學齡兒童を持つ親達は新しい國民學校の教育方針を充分理解しなければならない。

この書は國民學校の精神を說いて透徹、從來の家庭教育に果してこれに應ずるだけの原理ありや否やを反省せしめ、新に家庭教育を根本的に立て直さなければならないことを感ぜしめると共に家庭教育の構造內容を豐かに示してゐる。

この種の書物中代表的なものとして廣く讀まるべき好著である。

國の子の家庭教育

飛田多喜雄著　昭和一七、七、七
新潮社　A5三三二頁　二・二〇

この書は國民學校教育の立場から、家庭教育の問題を說いたものであり、著者の國民學校訓導としての長い經驗を基礎として、具體的な問題を取り上げ、これを懇切に解說したものである。育兒の目當が國の子を育てるにあり、併しこれは親の努力と丹誠とに俟つものであり、殊に身を以て示

す親心、母親の沒我的な努力と力强い垂訓が家庭教育の中核であると言ふ事が、この書を貫く精神である。

この樣な全般的心構へに就いてその概說から更に進んで子供の道德修練、言語修練、魂の開拓、研究する子供達、强くする鍛錬と朕、情操陶冶、進學の問題等に就いての具體的な所說が、著者の日頃接してゐる子供達に就いての實際的經驗を基として展開されてゐる。

一般家庭の兩親に對する家庭教育の實際的指導の書として推薦したい。

國民學校母の會の實踐

久保田龜藏著　昭和一六、二、一〇
酒井書店　B6二一四頁　一・三〇

㊟本書の著者は東京市泰明國民學校長であり、東京市聯合母の會の理事をつとめてゐる人である。

內容は、第一編國民學校の教育、第二編母性の教育、第三編國民學校と母の會、第四編母の會の實踐方法の四編より成つてゐる。

國民學校誕生の意義と之が使命達成の爲に、如何に學校は家庭と緊密な連絡をとらなくてはならないかを述べ、家庭教育の振興の爲には母性教育の重要なる所以を、神代、萬葉、德川、現代の各

時代に於ける日本的母性の事例をあげて說いてゐる。

而して國民學校を中心とする母の會が、この母性教育に價値あるものであることを著者自らの體驗を反省し且、豐富な記錄を材料として記述してゐる。

又母の會を實踐するに當つての組織、運營方法、事業、その他實踐上留意すべき點について細密なる指導がなされてゐる。

現下、學校と家庭との連絡の問題の眞劍に考へられてゐる際、この書はよき示唆と方針確立によき參考を提供するものである。

家庭教育指導者一般にすゝめたきものである。

兒童公園

末田ます著　昭和一七、七、三〇
清水書房　B6二六五頁　一・五〇

公園といふものが兒童を教育する場所として、學校家庭に次いで重要な役割を擔ふべきものである事は兎角等閑に附されがちである。

所で著者はいち早くこの點に着目し二十年來公園に集る兒童の指導に當つて來たのである。本書

は、著者の公園兒童の指導記錄とその經驗を基にして兒童公園に關する著者の體系を述べたもので第一篇「兒童公園指導の記錄」では大震災直後の日比谷公園での記錄を始め、東京市内諸公園の巡回記錄を記し、第二篇「兒童公園の管理指導」では公園指導者の組織、指導技術、毎月の指導の豫定案、一日の時間割を、第三篇「兒童公園の施設」では、兒童公園を都市内に配置する仕方、兒童公園内の設備を述べて居る。

兒童公園に關心を持つものが一讀して然るべき書物である。

實踐季節保育所

根岸草笛著　昭和一六、一二、一
山雅房　A5四二九頁　三・五〇

本書は農村保育に長年の經驗を持つ著者が、自己の體驗を通して季節保育所經營に必要なる一切の事を懇切に說いたものである。季節保育所の保姆は單なる幼兒保育者にとゞまることなく、社會事業家としての反面が必要であること、或は農村保育に自然物の利用を充分行ふ可き事を說き、自ら考案した種々の玩具の作り方を圖示して居る。又保育所開所に當つての諸注意、一日の時間割、保育案の實例等を豐富に示して居る。

故に本書は季節保育所の保姆によき參考書である。尙本書の敍述は敎科書風でなく、興味深き挿話に滿ちて居る故に、一般家庭婦人が育兒の參考に讀むのにも適して居る。

村の保育所

川崎大治著　昭和一七、五、二七
東京講演會出版部　B6三三九頁　二・三〇

童話作家である著者が農繁期保育所に極めて强い關心を持つに到つたのは、村の保育所の子供達との生活實踐を通して長編童話を書くといふ念願に發してゐるが、昭和十一年以來各地の保育所への參加は保育所の經營、保育の實際的技術にも造詣を深めてゐることがうかがはれる。

本書の內容は「開所式まで」「保育所の一日」「保姆への感謝」「現地報告」「紙芝居の魅力」「塚堀保育所の十日間」といふやうに纒つた保育所の指導書ではないが、前記のやうな著者の眼から見た村の保育所の種々な場面が極めて具體的に描かれてゐる。全體を通じて一般の人々に保育所の意義と役割を興味深く知らせると共に、又村の關係當局者、保姆等實際に仕事に參與する者にも示唆を與ふる所が多い。

結婚訓

穂積重遠著　昭和一六、一〇、二〇
中央公論社　A5二〇八頁　一・五〇

本書は先に厚生省で發表した結婚十訓を解説したものである。一生の伴侶として信頼出來る人を選べ、心身共に健康な人を選べ、相互に健康證明書を交換せよ、惡い遺傳の無い人を選べ、近親結婚は成るべく避けよ、成るべく早く結婚せよの十訓を物わかりのいゝ父親のやうな愛情で說いたものである。

著者の學者としての深い廣い立場と、豊富な生活經驗から湧き出したものであるだけに全篇興味深く讀まれ、これだけ心得て居れば良い結婚は疑ひないことである。

ましてや結婚といふ事が單なる個人的の事でなく、直ちに國家的意味を有する事が明らかにされつゝある今日、この嚴肅な人生の問題に對し熟慮斷行するに解り易い健全なよき指導書である。一般青年子女及び父兄の書として推薦する。

明かるい人事調停

生田花世著　昭和一七、一、一五
鶴書房　B6二五〇頁　一・五〇

人事調停委員の一人たる著者が、人事調停が極めて簡易な手續によつて家庭に於ける色々な問題を解決する方法である事を一般人に理解普及させる目的でものされた書である。實施後、日尙淺い人事調停法を理解せしめる書として好適である。

民法（Ⅲ）

中川善之助著　昭和一六、四、一五
岩波書店　A6三四三頁〇、八〇

本書は岩波全書の一冊で、東大教授我妻榮著民法Ⅰ—Ⅲの續刊で民法第四編、第五編、卽ち親族關係及相續關係を解說したものである。

本書の構成は民法典の順序に從ひ、敍述の仕方は教科書的ではあるが簡潔に要領よくまとめ、具體的實例を擧げて解說し、我が國民性の特色を解明し、改正案要項にも解き及んで今後の發展の方向を指示してゐる。

卷末に索引がついて居り、參考に便である。家庭教育指導者が複雜な家庭生活の家族關係を考へる場合のよき參考書といへよう。

昭和十八年三月二十五日印刷
昭和十八年三月三十日發行

文部省教化局

東京市京橋區木挽町一ノ二一
印刷人　小松代浩三

東京市京橋區木挽町一ノ二一
印刷所　特急印刷社
電話京橋五六一八八〇番

271
275

(83) 389